

科目名	キャリア教育(1)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	松永 滯奈
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	身構え・気構え・心構えを持ち、社会人基礎力としてのホスピタリティ精神を学ぶ。						
到達目標	1年間のキャリア教育を通じ人からの信頼をもとに仕事を勝ち取れる人間力を身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月20日	講義・演習	サポートアンケート・スケジュール確認	レポート作成
2	4月27日	講義・演習	学生便覧・ITリテラシー	レポート作成
3	5月11日	講義・演習	アークのルール・健康診断結果	レポート作成
4	5月18日	講義・演習	生活レポート・新歓レポート回収	レポート作成
5	5月25日	講義・演習	アーク撮影	レポート作成
6	6月1日	講義・演習	現場での注意事項	レポート作成
7	6月8日	講義・演習	学園祭レポート作成	レポート作成
8	6月15日	講義・演習	著作権に関する説明	レポート作成
9	6月22日	講義・演習	作品をつくるにあたっての注意事項	レポート作成
10	6月29日	講義・演習	舞台準備物等の説明	レポート作成
11	7月6日	講義・演習	夏休みの過ごし方について	レポート作成
12	7月13日	講義・演習	新人発掘の確認	レポート作成
13	8月24日	講義・演習	イベント	打ち合わせ、準備、本番
14	8月31日	講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
15	9月7日	講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			日々自分の目標を確認し、実行する	
【使用教科書・教材・参考書】				
筆記用具・ノート				

科目名	キャリア教育(2)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	松永 滯奈
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	身構え・気構え・心構えを持ち、社会人基礎力としてのホスピタリティ精神を学ぶ。						
到達目標	1年間のキャリア教育を通じ人からの信頼をもとに仕事を勝ち取れる人間力を身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月5日	講義・演習	ビジョンと目的目標の再確認	レポート作成
2	10月12日	講義・演習	生活レポートの記入	レポート作成
3	10月19日	講義・演習	新人発掘プレゼンテーションについて	レポート作成
4	10月26日	講義・演習	面接の対応の仕方	レポート作成
5	11月2日	講義・演習	海外のエンターテイメントを学ぶ	レポート作成
6	11月16日	講義・演習	SNS等の使用の仕方を学ぶ	レポート作成
7	11月23日	講義・演習	ビジョンと目的目標の再確認	レポート作成
8	11月30日	講義・演習	ダンサーの仕組みについて学ぶ	レポート作成
9	12月7日	講義・演習	将来設計について学ぶ	レポート作成
10	12月14日	講義・演習	冬休みの過ごし方・2年生への準備について・アクティビティ	レポート作成
11	12月21日	講義・演習	イベントに関する決め事	レポート作成
12	1月11日	講義・演習	イベントに関する注意事項	レポート作成
13	1月18日	講義・演習	イベントに関する心構え	打ち合わせ、準備、本番
14	2月1日	講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
15	2月8日	講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			日々自分の目標を確認し、実行する	
【使用教科書・教材・参考書】				
筆記用具・ノート				

科目名	キャリア教育(3)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	松永 滯奈
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	身構え・気構え・心構えを持ち、社会人基礎力としてのホスピタリティ精神を学ぶ。						
到達目標	1年間のキャリア教育を通じ人からの信頼をもとに仕事を勝ち取れる人間力を身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月20日	講義・演習	サポートアンケート・スケジュール確認	レポート作成
2	4月27日	講義・演習	学生便覧・ITリテラシー	レポート作成
3	5月11日	講義・演習	アークのルール・健康診断結果	レポート作成
4	5月18日	講義・演習	生活レポート・新歓レポート回収	レポート作成
5	5月25日	講義・演習	アーク撮影	レポート作成
6	6月1日	講義・演習	現場での注意事項	レポート作成
7	6月8日	講義・演習	学園祭レポート作成	レポート作成
8	6月15日	講義・演習	著作権に関する説明	レポート作成
9	6月22日	講義・演習	作品をつくるにあたっての注意事項	レポート作成
10	6月29日	講義・演習	舞台準備物等の説明	レポート作成
11	7月6日	講義・演習	夏休みの過ごし方について	レポート作成
12	7月13日	講義・演習	新人発掘の確認	レポート作成
13	8月24日	講義・演習	イベント	打ち合わせ、準備、本番
14	8月31日	講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
15	9月7日	講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			日々自分の目標を確認し、実行する	
【使用教科書・教材・参考書】				
筆記用具・ノート				

科目名	キャリア教育(4)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	松永 滯奈
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	身構え・気構え・心構えを持ち、社会人基礎力としてのホスピタリティ精神を学ぶ。						
到達目標	1年間のキャリア教育を通じ人からの信頼をもとに仕事を勝ち取れる人間力を身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月5日	講義・演習	ビジョンと目的目標の再確認	レポート作成
2	10月12日	講義・演習	生活レポートの記入	レポート作成
3	10月19日	講義・演習	新人発掘プレゼンテーションについて	レポート作成
4	10月26日	講義・演習	面接の対応の仕方	レポート作成
5	11月2日	講義・演習	海外のエンターテイメントを学ぶ	レポート作成
6	11月16日	講義・演習	SNS等の使用の仕方を学ぶ	レポート作成
7	11月23日	講義・演習	ビジョンと目的目標の再確認	レポート作成
8	11月30日	講義・演習	ダンサーの仕組みについて学ぶ	レポート作成
9	12月7日	講義・演習	将来設計について学ぶ	レポート作成
10	12月14日	講義・演習	冬休みの過ごし方・2年生への準備について・アクティビティ	レポート作成
11	12月21日	講義・演習	イベントに関する決め事	レポート作成
12	1月11日	講義・演習	イベントに関する注意事項	レポート作成
13	1月18日	講義・演習	イベントに関する心構え	打ち合わせ、準備、本番
14	2月1日	講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
15	2月8日	講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			日々自分の目標を確認し、実行する	
【使用教科書・教材・参考書】				
筆記用具・ノート				

科目名	ミュージカルVT(1)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	石井直彦
学科・コース	プロミュージシャン科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年						
授業の学習 内容	①自分に合った発声を知り、自らの力を伸ばすため ②演技で声を出すこと、ダンスでのリズムの取り方や音楽の聞き方にも繋がる ③正確に音楽を把握し、すべきことを具体的に理解した上で歌うことができるようになってほしい ④長所短所を含めた自分の声の癖や特徴を知り、ミュージカルナンバーを通してトレーニングの方法や楽曲を仕上げる過程を学ぶ						
到達目標	・負担のない発声で歌うことができる ・演劇表現の一つとしての楽曲を歌うことができる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月19日	講義・演習	個人の声を把握するため簡単な発声	発声をする前後のコンディションのチェック
2	5月10日	講義・演習	ウィークポイントの強化に向けた発声①	授業で行った発声内容の復習
3	5月17日	講義・演習	ウィークポイントの強化に向けた発声②	発声をする前後のコンディションのチェック
4	5月24日	講義・演習	発声・課題曲①の説明	課題曲①の音源を聴く
5	5月31日	講義・演習	発声・課題曲①の歌詞の理解と音取り	課題曲①の歌詞を声に出して読む
6	6月7日	講義・演習	発声・課題曲①の分析と歌唱	課題曲①の音程確認
7	6月14日	講義・演習	発声・課題曲①の歌唱とフィードバック	課題曲①の練習
8	6月21日	講義・演習	発声・課題曲①の歌唱とフィードバック	課題曲①の練習
9	6月28日	講義・演習	発声・課題曲②の歌詞の理解と音取り	課題曲②の音源を聴く
10	7月5日	講義・演習	発声・課題曲②の分析と歌唱	課題曲②の歌詞を声に出して読む・歌詞の内容の把握
11	7月12日	講義・演習	発声・課題曲②の歌唱とフィードバック	課題曲②の練習
12	7月19日	講義・演習	課題曲②のソロ歌唱	課題曲②の練習
13	8月23日	講義・演習	課題曲②のソロ歌唱	課題曲②の練習
14	8月30日	講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
15	9月6日	講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		・授業で行った発声練習の復習 ・課題曲が出た際—歌詞の理解、ミュージカルナンバーの場合、曲が使われている作品の内容の把握をする。		
【使用教科書・教材・参考書】				
楽譜・筆記用具・メモ帳				

科目名	ミュージカルVT(2)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	石井直彦
学科・コース	プロミュージシャン科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年						
授業の学習 内容	①自分に合った発声を知り、自らの力を伸ばすため ②演技で声を出すこと、ダンスでのリズムの取り方や音楽の聞き方にも繋がる ③正確に音楽を把握し、すべきことを具体的に理解した上で歌うことができるようになってほしい ④長所短所を含めた自分の声の癖や特徴を知り、ミュージカルナンバーを通してトレーニングの方法や楽曲を仕上げる過程を学ぶ						
到達目標	・負担のない発声で歌うことができる ・演劇表現の一つとしての楽曲を歌うことができる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月4日	講義・演習	発声・課題曲③の歌詞の理解と音取り	前期に行った発声内容の確認、反復練習
2	10月11日	講義・演習	発声・課題曲③の分析と歌唱	課題曲③の音程確認
3	10月18日	講義・演習	発声・課題曲③の歌唱とフィードバック	課題曲③の練習
4	10月25日	講義・演習	発声・課題曲③の歌唱とフィードバック	課題曲③の練習
5	11月1日	講義・演習	発声・課題曲(ソロ)の決定	課題曲(ソロ)の候補探し
6	11月8日	講義・演習	発声・個人課題曲の練習(音程・発声・リズム)	課題曲の練習(歌詞の内容、音程)
7	11月15日	講義・演習	発声・個人課題曲の練習(音程・発声・リズム)	課題曲の練習(歌詞の内容、音程)
8	11月22日	講義・演習	発声・個人課題曲の練習(歌詞の内容)	課題曲の練習(表現)
9	11月29日	講義・演習	発声・個人課題曲の練習(歌詞の内容)	課題曲の練習(表現)
10	12月6日	講義・演習	個人課題曲の歌唱とフィードバック	課題曲の練習(パフォーマンス)
11	12月13日	講義・演習	個人課題曲の歌唱とフィードバック	フィードバック内容についての練習
12	12月20日	講義・演習	個人課題曲ソロ歌唱	課題曲の練習
13	1月10日	講義・演習	個人課題曲ソロ歌唱	課題曲の練習
14	1月17日	講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
15	1月31日	講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		<small>・授業で行った発声練習の復習 ・課題曲が出た際→歌詞の理解、ミュージカルナンバーの場合、曲が使われている作品の内容の把握をする。</small>		
【使用教科書・教材・参考書】				
楽譜・筆記用具・メモ帳				

科目名	Style JAZZ&パークダンサー(1) テーマパークB(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	石井直彦
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年						
授業の学習 内容	①プロのダンサーとなるための技術力・表現力・思考力を身につけるため ②他のいろんなジャンルのダンスや芝居、歌、などに通じる ③ただ「上手い」だけのダンサーではなく、心も豊かなエンターテイナーになってほしい ④ただ踊るだけではなく、考えて想像する時間を取り入れて、コミュニケーションをしっかりとる授業にしたい						
到達目標	前期はどんな現場でも有効な確かな「基礎力」と「技術力」を見つける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月21日	講義・演習	テーマパークダンスとは何か考える①	好きなショーを見てプレゼンしてもらう
2	4月28日	講義・演習	テーマパークダンスとは何か考える②	見たことないショーを見てくる
3	5月12日	講義・演習	豊かな表現をうむ腕の使い方①	腕の使い方がきれいなダンサーをあげてもら
4	5月19日	講義・演習	豊かな表現をうむ腕の使い方②	基本のポジションを覚える
5	5月26日	講義・演習	豊かな表現をうむ腕の使い方③	前回の復習をしてくる
6	6月2日	講義・演習	踊りの質を高めるための脚の使い方①	リズムがかっこいいダンサーをあげてもら
7	6月9日	講義・演習	踊りの質を高めるための脚の使い方②	足の使い方のパターンを考える
8	6月16日	講義・演習	踊りの質を高めるための脚の使い方③	前回の復習をしてくる
9	6月23日	講義・演習	魅力的な表情での踊り方①	自分の好きなショーやダンサーを紹介
10	6月30日	講義・演習	魅力的な表情での踊り方②	自分の顔や体としっかり向き合う
11	7月7日	講義・演習	魅力的な表情での踊り方③	自分の好きな表情を見つける
12	7月14日	講義・演習	オーディション対策①	自分に似合うオーディション着を選ぶ
13	8月25日	講義・演習	オーディション対策②	自分を思い切り表現する
14	9月1日	講義・演習	イベント実践を通して「人前に立つこと」を学ぶ	レポートの提出
15	9月8日	講義・演習	イベント実践を通して「人前に立つこと」を学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		YouTubeなどでテーマパークを見て学ぶ		
【使用教科書・教材・参考書】				
シューズ・レオタード				

科目名	Style JAZZ&パークダンサー(2) テーマパークB(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	石井直彦
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年						
授業の学習 内容	①プロのダンサーとなるための技術力・表現力・思考力を身につけるため ②他のいろんなジャンルのダンスや芝居、歌、などに通じる ③ただ「上手い」だけのダンサーではなく、心も豊かなエンターテイナーになってほしい ④ただ踊るだけではなく、考えて想像する時間を取り入れて、コミュニケーションをしっかりとる授業にしたい						
到達目標	質の高い「エンターテイナー」を目指す						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月6日	講義・演習	テーマパークダンスとは何か考える①	テーマパークダンスについて考えて来てもらう
2	10月13日	講義・演習	テーマパークダンスとは何か考える②	先週をふまえて、意見交換
3	10月20日	講義・演習	「エンターテインメント」とは何か考える①	エンターテインメントについて考えて来てもらう
4	10月27日	講義・演習	「エンターテインメント」とは何か考える②	先週をふまえて意見交換
5	11月3日	講義・演習	ショーの世界観を表現する①	好きなショーの好きな点などプレゼンしてもらう
6	11月17日	講義・演習	ショーの世界観を表現する②	知らなかったショーを見てくる
7	11月24日	講義・演習	役柄になりきる①	好きなアニメやショーについて話す
8	12月1日	講義・演習	役柄になりきる②	なりきる役について調べる
9	12月8日	講義・演習	近くのお客さんに向けての表現①	パレードなど映像でもいいので見てくる
10	12月15日	講義・演習	近くのお客さんに向けての表現②	レッスンも踏まえてもう一度パレードの映像をみる
11	1月12日	講義・演習	遠くのお客さんに向けての表現①	大きなショーの映像を見てくる
12	1月19日	講義・演習	遠くのお客さんに向けての表現②	レッスンを踏まえて、もう一度映像を見る
13	2月2日	講義・演習	オーディション対策	自分を思い切り表現する
14	2月9日	講義・演習	イベント実践を通して「エンターテイナー」を学ぶ	レポートの提出
15	2月16日	講義・演習	イベント実践を通して「エンターテイナー」を学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		YouTubeなどでテーマパークを見て学ぶ		
【使用教科書・教材・参考書】				
シューズ・レオタード				

科目名	LOCK (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	松永滯奈
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ストリートダンスの原点とも言えるLOCKは今も様々な場面で役立つ為 ②ヒップホップはもちろん、ジャズやポップなどともリンクする動きやノリがある ③LOCKや音楽を好きになってほしい ④LOCKを踊れることのみならず、ダンス人生に活かしてもらえるよう有意義に指導する						
到達目標	LOCKの基本的な動きを習得すること。またそれを使いこなし、フリーで踊ったり簡単な振付を作れるようになること						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月19日	講義・演習	LOCKの基礎ムーブ①	YouTubeなどを観てLOCKのイメージを持つ
2	5月10日	講義・演習	LOCKの基礎ムーブ②	YouTubeなどを観てLOCKのイメージを持つ
3	5月17日	講義・演習	リズム&アイソレーション	FUNKミュージックの定番を聴き込んでリズムに慣れておく
4	5月24日	講義・演習	リズム&基礎ムーブ	FUNKミュージックの定番を聴き込んでリズムに慣れておく
5	5月31日	講義・演習	コンビネーション	ここまで習った基礎をおさらいしておく
6	6月7日	講義・演習	遊びを混ぜて踊る	YouTubeなどを観てLOCKのイメージを持つ
7	6月14日	講義・演習	フロアを混ぜて踊る	YouTubeなどを観てLOCKのイメージを持つ
8	6月21日	講義・演習	アクロバットを混ぜて踊る	YouTubeなどを観てLOCKのイメージを持つ
9	6月28日	講義・演習	ここまでのおさらい	ここまで習った基礎をおさらいしておく
10	7月5日	講義・演習	フリーで踊ろう	短くてもいいのでフリーで踊ってみる
11	7月12日	講義・演習	振りを作ろう	短くてもいいので振りを作ってみる
12	7月19日	講義・演習	試験の課題を提示	ここまで習ったことを発表できるよう準備しておく
13	8月23日	講義・演習	試験の実施	これまでの成果を出し切れるよう練習やイメトレを重ねておく
14	8月30日	講義・演習	イベント実践を通してLOCKの楽しさを学ぶ	レポートの提出
15	9月6日	講義・演習	イベント実践を通してLOCKの魅せ方を学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			レッスン時に使用した音楽や知識を確実に身につけていく。YouTubeやネットの記事も参照すること	
【使用教科書・教材・参考書】				
シューズ、タオル				

科目名	LOCK (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	松永滯奈
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ストリートダンスの原点とも言えるLOCKは今も様々な場面で役立つ為 ②ヒップホップはもちろん、ジャズやポップなどともリンクする動きやノリがある ③LOCKや音楽を好きになってほしい ④LOCKを踊れることのみならず、ダンス人生に活かしてもらえるよう有意義に指導する						
到達目標	LOCKの基本的な動きを習得すること。またそれを使いこなし、フリーで踊ったり簡単な振付を作れるようになること						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月4日	講義・演習	LOCK基礎の復習	前期の復習をしておく
2	10月11日	講義・演習	LOCK応用(ステップの変化)	基礎の復習をしておく
3	10月18日	講義・演習	LOCK応用(リズムの変化)	基礎の復習をしておく
4	10月25日	講義・演習	フリーで踊ろう	YouTubeを見たり実際にフリーで踊って準備しておく
5	11月1日	講義・演習	ゲーム形式で踊ろう	基礎の復習をしておく
6	11月8日	講義・演習	オリジナルムーブを作ろう	応用まで復習しておく
7	11月15日	講義・演習	ここまでのまとめ	ここまでのおさらいをしておく
8	11月22日	講義・演習	実践:振り創り	ここまでのおさらいをしておく
9	11月29日	講義・演習	実践:模擬バトル	バトルの映像を見たり、実践して準備しておく
10	12月6日	講義・演習	テストの課題の提示	ここまでのおさらいをしておく
11	12月13日	講義・演習	テストに向けての指導	前週の確認をしておく
12	12月20日	講義・演習	プレテスト	テストの準備をしておく
13	1月10日	講義・演習	テスト	ここまでの成果を出せるよう準備しておく
14	1月17日	講義・演習	イベント実践を通してLOCKの楽しさを学ぶ	レポートの提出
15	1月31日	講義・演習	イベント実践を通してLOCKの魅せ方を学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		授業外でもセッションをしたり、とにかく実践すること。		
【使用教科書・教材・参考書】				
シューズ、タオル				

科目名	POP (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 石井直彦 ・ 村上未来
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)	
教員の略歴	石井:NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年 村上:POP ダンスインストラクター歴5年					
授業の学習 内容	①歴史、成り立ちを学びダンスへの理解を深めると共に 実践することで、様々なジャンルのダンスに活かすことができる ②ストリートダンス全般には必須 ③POPというジャンル、オールドスクール全般に興味を持ち 今後のダンスライフへ繋がっていかねばと思っています。 ④基礎からの学びはもちろん、実践のみならずそのムーブがどのようにできたのかを平行して授業することで 技術・知識ともにあるダンサー育成を目指します。					
到達目標	一つ一つのムーブと成り立ちを理解しながら、振り付けのみならずフリーでもPOPの要素を取り入れられるようにする					
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義・演習	POPとはどんなものなのかを知る。ヒット部位と使い方	ヒット練習
2	5月9日	講義・演習	POPとヒットの違いと使い分け	POPとヒットの使い分けを実践練習
3	5月16日	講義・演習	重心移動、軸の使い方	軸移動の理解を深める為の軸移動実践練習
4	5月23日	講義・演習	アップを取り入れながらのムーブ	アップのリズムキープしながらヒットする練習
5	5月30日	講義・演習	ハンドウエーブ、その応用	ハンドウエーブの練習
6	6月6日	講義・演習	ボディウエーブ、その応用	ボディウエーブの練習
7	6月13日	講義・演習	1-6までの復習と、それを踏まえてのルーティン	それぞれのムーブの名前とムーブの復習
8	6月20日	講義・演習	ツイスト、フレックス(ツイストオーフレックス)	ツイストとフレックスの違いを理解、使い分け練習
9	6月27日	講義・演習	ネックオーフレックスについて	首と首から下の使い方の理解と復習
10	7月4日	講義・演習	下半身メインのフレックスと上半身の使い分け	下半身のフレックス、足裏の使い方の復習
11	7月11日	講義・演習	ストップ、空間移動の使い方	ストップのためのスタマック、首のヒットの強化
12	7月18日	講義・演習	ロール全般	首から膝までのロール復習
13	8月22日	講義・演習	全てのまとめ、復習とルーティン	全てのムーブ名の復習と、それらのムーブを繋げてのフリー
14	8月29日	講義・演習	イベント実践を通してPOPの楽しさを学ぶ	レポートの提出
15	9月5日	講義・演習	イベント実践を通してPOPの楽しさを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		Youtubeなどを見てPOPを学ぶ、踊ってみる。		
【使用教科書・教材・参考書】				
シューズ・タオル				

科目名	POP (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 石井直彦 ・ 村上未来
学科・コース	ダンス&アクターズ科(屋間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)	
教員の略歴	石井:NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年 村上:POP ダンスインストラクター歴5年					
授業の学習 内容	①歴史、成り立ちを学びダンスへの理解を深めると共に 実践することで、様々なジャンルのダンスに活かすことができる ②ストリートダンス全般には必須 ③POPというジャンル、オールドスクール全般に興味を持ち 今後のダンスライフへ繋がっていかねばと思っています。 ④基礎からの学びはもちろん、実践のみならずそのムーブがどのようにできたのかを平行して授業することで 技術・知識ともにあるダンサー育成を目指します。					
到達目標	一つ一つのムーブと成り立ちを理解しながら、振り付けのみならずフリーでもPOPの要素を取り入れられるようにする					
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	前期授業のムーブの復習・そのルーティン	前期学んだムーブ名とムーブの復習
2	10月10日	講義・演習	ウォークアウトとその応用	ウォークアウトで気をつけるべき点とシルエットの復習
3	10月17日	講義・演習	ダイムストップとムーブへの取り入れ方のバリエーション	ダイムストップでのストマックのヒットの質上げ練習
4	10月24日	講義・演習	ダブルヒット、力の抜き入れのパターン	ダブルヒットの練習
5	10月31日	講義・演習	ボトムファースト、向きと応用	ボトムファーストの意味と、上下半身の使い分けの練習
6	11月7日	講義・演習	マスターオーフレックス	マスターオーフレックスの順番と注意点の確認
7	11月14日	講義・演習	1-6までの復習と、それを踏まえてのルーティン	1-6までのムーブ名とムーブの注意点の確認・復習
8	11月21日	講義・演習	フリーで踊るためのpop要素の取り入れ方	popを用いたフリームーブの練習
9	11月28日	講義・演習	バウンス、スウィングでの抜き方	音に対してバウンス、スウィングでアプローチするフリームーブの練習
10	12月5日	講義・演習	リズムキープしながらのヒット・popの使い分け 応用	リズムキープしながら打つ練習
11	12月12日	講義・演習	14スタイルを繋げての知識・ムーブの確認	14スタイルの名前・ムーブの復習
12	12月19日	講義・演習	前期、後期授業のまとめ チーム分けしての振り・構成作り①	ルーティンの練習
13	1月9日	講義・演習	前期、後期授業のまとめ チーム分けしての振り・構成作り②と発表会	ルーティンの練習・全ムーブの名称、注意点の確認
14	1月16日	講義・演習	イベント実践を通してムーブの繋ぎや流れのコツを学ぶ	レポートの提出
15	1月30日	講義・演習	イベント実践を通して歴史と基礎の大切さを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		Youtubeなどを見てPOPを学ぶ、踊ってみる。		
【使用教科書・教材・参考書】				
シューズ・タオル				

科目名	K-POP VT(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	石井直彦 ・ ハ・ドンウク
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4単位)		
教員の略歴	石井:NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年 ハ・ドンウク:K-POPヴォーカル講師、韓国語講師						
授業の学習 内容	①韓国でアイドル、歌手として必要な基本的な発音、発声と中心とする基礎的な事を習得する必要がある ②KPOPボーカル、ダンスボーカル、ラップに共通する基礎的レッスンが必要とする ③人前で自分の実力を最大限に出せる精神力、技術を身につけると共に、海外でも活躍できる社会性をも身につけて欲しい。						
到達目標	歌詞に出てくる基礎的な韓国語を正しい発声で読むことができ、人前でパフォーマンスを恥じらいなく、じぶんの実力を表現できるようになる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月19日	講義・演習	授業の説明、課題曲+D12:K20使った実際の進め方、学習の仕方	基礎の復習。 完コピにおいてはグループ毎のテーマを決める。 振付班、構成班、衣装メイク班を決める
2	5月10日	講義・演習	発声練習、課題曲1の解釈	基礎の復習。 完コピにおいては各チーム課題点のブラッシュアップ。
3	5月17日	講義・演習	課題曲を使ったレベルチェック	自分やチームに対する客観的評価を把握し、改善策を考える。
4	5月24日	講義・演習	課題曲2のハングルの練習、楽曲解釈	揃っていない箇所の改善を図りつつ、仲間の魅力的な所作を学ぶ。
5	5月31日	講義・演習	課題曲2のグループレッスン、発声レッスン	完コピを通して自分の課題点を把握し、その改善策を考える。 また完コピ制作において自分がどういった役割が出来たか、チームにおいての自分の役割についても考え直し今後についても考える。
6	6月7日	講義・演習	課題曲3のハングルの練習、楽曲解釈	基礎の復習。 完コピにおいてはグループ毎のテーマを決める。 振付班、構成班、カメラ構成班、衣装メイク班を決める
7	6月14日	講義・演習	課題曲3のグループレッスン、発声レッスン	基礎の復習。 完コピにおいては各チーム課題点のブラッシュアップ。
8	6月21日	講義・演習	課題曲4のハングルの練習、楽曲解釈	自分やチームに対する客観的評価を把握し、改善策を考える。撮影プランも練り直す。
9	6月28日	講義・演習	課題曲4のグループレッスン、発声レッスン	仮撮影した画角を見て改めて撮影プランを練り直す。 踊りの揃っていない部分の確認
10	7月5日	講義・演習	課題曲5のハングルの練習、楽曲解釈	自分のチームの作品を確認し、今後に向けた改善点を見つける。
11	7月12日	講義・演習	課題曲5のグループレッスン、発声レッスン	他チームの作品からも刺激を受け、今後の参考にし次回以降更にいい見せ方が出来るよう研究する。
12	7月19日	講義・演習	テスト前リハーサル	時間が短いので間に合っていない制作は時間外にまとめる
13	8月23日	講義・演習	中間実技テスト	振付制作の難しさを学び、今後に向けた映像資料を探し、休みの期間にそれを見て学んでおく。
14	8月30日	講義・演習	イベント実践を通してKPOPのすべてを学ぶ	レポートの提出
15	9月6日	講義・演習	イベント実践を通してKPOPのすべてを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			ネットを使用し、検索や調査・動画サイトでKPOPについて研究する	
【使用教科書・教材・参考書】				
筆記用具・必要であればタオル				

科目名	K-POP VT(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 石井直彦 ハ・ドンウク
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4単位)	
教員の略歴	石井:NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年 ハ・ドンウク:K-POPヴォーカル講師、韓国語講師					
授業の学習 内容	①韓国でアイドル、歌手として必要な基本的な発音、発声と中心とする基礎的な事を習得する必要がある ②KPOPボーカル、ダンスボーカル、ラップに共通する基礎的レッスンが必要とする ③人前で自分の実力を最大限に出せる精神力、技術を身につけると共に、海外でも活躍できる社会性をも身につけて欲しい。					
到達目標	歌詞に出てくる基礎的な韓国語を正しい発声で読むことができ、人前でパフォーマンスを恥じらいなく、じぶんの実力を表現できるようになる					
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月4日	講義・演習	授業の説明、課題曲+D12:K20使った実際の進め方、学習の仕方	基礎の復習。 完コピにおいてはグループ毎のテーマを決める。 振付班、構成班、衣装メイク班を決める
2	10月11日	講義・演習	発声練習、課題曲1の解釈	基礎の復習。 完コピにおいては各チーム課題点のブラッシュアップ。
3	10月18日	講義・演習	課題曲を使ったレベルチェック	自分やチームに対する客観的評価を把握し、改善策を考える。
4	10月25日	講義・演習	課題曲2のハングルの練習、楽曲解釈	揃っていない箇所の改善を図りつつ、仲間の魅力的な所作を学ぶ。
5	11月1日	講義・演習	課題曲2のグループレッスン、発声レッスン	完コピを通して自分の課題点を把握し、その改善策を考える。 また完コピ制作において自分がどういった役割が出来たか、チームにおいての自分の役割についても考え直し今後についても考える。
6	11月8日	講義・演習	課題曲3のハングルの練習、楽曲解釈	基礎の復習。 完コピにおいてはグループ毎のテーマを決める。 振付班、構成班、カメラ構成班、衣装メイク班を決める
7	11月15日	講義・演習	課題曲3のグループレッスン、発声レッスン	基礎の復習。 完コピにおいては各チーム課題点のブラッシュアップ。
8	11月22日	講義・演習	課題曲4のハングルの練習、楽曲解釈	自分やチームに対する客観的評価を把握し、改善策を考える。撮影プランも練り直す。
9	11月29日	講義・演習	課題曲4のグループレッスン、発声レッスン	仮撮影した画角を見て改めて撮影プランを練り直す。 踊りの揃っていない部分の確認
10	12月6日	講義・演習	課題曲5のハングルの練習、楽曲解釈	自分のチームの作品を確認し、今後に向けた改善点を見つける。
11	12月13日	講義・演習	課題曲5のグループレッスン、発声レッスン	他チームの作品からも刺激を受け、今後の参考にし次回以降更にいい見せ方が出来るよう研究する。
12	12月20日	講義・演習	テスト前リハーサル	時間が短いので間に合っていない制作は時間外にまとめる
13	1月10日	講義・演習	中間実技テスト	振付制作の難しさを学び、今後に向けた映像資料を探し、休みの期間にそれを見て学んでおく。
14	1月17日	講義・演習	イベント実践を通してKPOPのすべてを学ぶ	レポートの提出
15	1月31日	講義・演習	イベント実践を通してKPOPのすべてを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			ネットを使用し、検索や調査・動画サイトでKPOPについて研究する	
【使用教科書・教材・参考書】				
筆記用具・必要であればタオル				

科目名	Media Artプロジェクト(1)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	石井直彦
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年						
授業の学習 内容	テクノロジーエンターテインメントの事例を学びながら、身体表現(ダンス、パントマイム、アクロバット、イリュージョン)とテクノロジーを掛け合わせる方法を学び、研究、開発をする。						
到達目標	「身体表現」「テクノロジー」「アイデア」の3種類のレッスンを、「自分らしさ」「自分しかできない」新しい組み合わせのエンターテインメントの創出、「思いつく」「作る」「表現する」ができる総合エンターテインメントの育成を目指す。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月22日	講義・演習	「アイデア」の出し合い	なぜこの授業を選択したのかを意識的に確認する
2	4月29日	講義・演習	「身体」を使つての表現する	フィジカルを活かすための対話
3	5月13日	講義・演習	「技術」を取り入れる	それぞれに出来る様になったことを共有する
4	5月20日	講義・演習	3要素の「技術」「身体」「アイデア」を学ぶ	自分自身何がこの授業で出来るようになったのかを自覚する
5	5月27日	講義・演習	プロジェクトマッピングを学ぶ	それぞれに出来る様になったことを共有する
6	6月3日	講義・演習	プロジェクトマッピングとダンスを学ぶ	理解し深めてくる
7	6月10日	講義・演習	プロジェクトマッピングとダンスの確認	それぞれに出来る様になったことを共有する
8	6月17日	講義・演習	テクノロジーとエンターテインメントの方法	それぞれに出来る様になったことを共有する
9	6月24日	講義・演習	融合と方法	前回からの成長を自身が感じられるまでやりこむ
10	7月1日	講義・演習	作品振付を考える	振付を理解し深めてくる
11	7月8日	講義・演習	作品を形つける	お互いの踊りを見て感じたことを考える
12	7月15日	講義・演習	作品の発表	ステージングの意味を理解する
13	8月26日	講義・演習	「5G」通信を使ったエンターテインメントの方法	理解し深めてくる
14	9月2日	講義・演習	イベント実践を通してパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
15	9月9日	講義・演習	イベント実践を通してパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		Youtubeなどで色々なジャンルを観る。知る。触れる。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Media Artプロジェクト(2)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	石井直彦
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年						
授業の学習 内容	テクノロジーエンターテインメントの事例を学びながら、身体表現(ダンス、パントマイム、アクロバット、イリュージョン)とテクノロジーを掛け合わせる方法を学び、研究、開発をする。 前期で学んだことを形にし実際に発表する						
到達目標	アイデア出しから構成演出振り付けを行いテクノロジーを活かした作品を完成させる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月7日	講義・演習	前期の復習	なぜこの授業を選択したのかを意識的に確認する
2	10月14日	講義・演習	「アイデア」の出し合い	知識を活かすための対話
3	10月21日	講義・演習	「技術」を取り入れる	それぞれに出来る様になったことを共有する
4	10月28日	講義・演習	構成・演出を決める	話し合いの内容を確認する
5	11月4日	講義・演習	楽曲決め	各自楽曲を調べる
6	11月18日	講義・演習	プロジェクトマッピングとダンスの振り付けを行う	振り付けの確認
7	11月25日	講義・演習	プロジェクトマッピングの応用	マッピング資料を確認する
8	12月2日	講義・演習	テクノロジーとエンターテインメントの表現方法	今後のエンターテインメント業界について考える
9	12月9日	講義・演習	作品全体の確認	前回からの成長を自身で感じられるまでやりこむ
10	12月16日	講義・演習	作品のフィードバック	振付を理解し深めてくる
11	1月13日	講義・演習	作品を形つける	お互いの踊りを見て感じたことを考える
12	1月20日	講義・演習	作品の通し稽古と話し合い	ステージングの意味を理解する
13	2月3日	講義・演習	作品の発表	反省と改善
14	2月10日	講義・演習	イベント実践を通してパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
15	2月17日	講義・演習	イベント実践を通してパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			Youtubeなどで色々なジャンルを観る。知る。触れる。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	K-POPプロジェクト(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	松永 滯奈
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4単位)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	KPOPアーティストや、KPOPバックダンサーに必要なスキルの習得を目指します。 具体的にはKPOPグループの特徴である群舞のように揃ったダンス、そして溢れ出る魅力的な個性、そして自分自身をより良く見せるセルフプロモーション力です。これら全て大事なエッセンスなので、これらをトータル的に一年かけて指導していきます。						
到達目標	どこでも通用するプロアーティスト、プロダンサーの輩出。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月19日	講義・演習	リズム、アイソレ、振付等基礎トレーニングとグループ分けによる完コビ(BOYSグループ)の制作	基礎の復習。 完コビにおいてはグループ毎のテーマを決める。 振付班、構成班、衣装メイク班を決める
2	5月10日	講義・演習	リズム、アイソレ、振付等基礎トレーニングと完コビ制作	基礎の復習。 完コビにおいては各チーム課題点のブラッシュアップ。
3	5月17日	講義・演習	完コビ制作と中間発表	自分やチームに対する客観的評価を把握し、改善策を考える。
4	5月24日	講義・演習	踊り込み	揃っていない箇所の改善を図りつつ、仲間の魅力的な所作を学ぶ。
5	5月31日	講義・演習	完コビ発表会	完コビを通して自分の課題点を把握し、その改善策を考える。 また完コビ制作において自分がどういった役割が出来たか、チームにおいての自分の役割についても考え直し今後についても考える。
6	6月7日	講義・演習	リズム、アイソレ、振付等基礎トレーニングとグループ分けによる完コビ(GIRLSグループ)の制作	基礎の復習。 完コビにおいてはグループ毎のテーマを決める。 振付班、構成班、カメラ構成班、衣装メイク班を決める
7	6月14日	講義・演習	リズム、アイソレ、振付等基礎トレーニングと完コビ制作	基礎の復習。 完コビにおいては各チーム課題点のブラッシュアップ。
8	6月21日	講義・演習	完コビ制作と中間発表(発表の際、各チーム撮影プランも併せてプレゼンテーション)	自分やチームに対する客観的評価を把握し、改善策を考える。撮影プランも練り直す。
9	6月28日	講義・演習	動画撮影に向けたロケハン及び完コビ制作	仮撮影した画角を見て改めて撮影プランを練り直す。 踊りの揃っていない部分の確認
10	7月5日	講義・演習	完コビ動画撮影会	自分のチームの作品を確認し、今後に向けた改善点を見つける。
11	7月12日	講義・演習	動画公開会、リズムアイソレ振付等の基礎トレーニング、次回制作に向けたグループ発表	他チームの作品からも刺激を受け、今後の参考にし次回以降更にいい見せ方が出来るよう研究する。
12	7月19日	講義・演習	オリジナル作品制作(1コーラスのみ)	時間が短いので間に合っていない制作は時間外にまとめる
13	8月23日	講義・演習	作品制作及び発表会	振付制作の難しさを学び、今後に向けた映像資料を探し、休みの期間にそれを見て学んでおく。
14	8月30日	講義・演習	イベント実践を通してKPOPのすべてを学ぶ	レポートの提出
15	9月6日	講義・演習	イベント実践を通してKPOPのすべてを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			ネットを使用し、検索や調査・動画サイトでKPOPについて研究する	
【使用教科書・教材・参考書】				
シューズ・タオル				

科目名	K-POPプロジェクト(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	松永 滯奈
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4単位)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	KPOPアーティストや、KPOPバックダンサーに必要なスキルの習得を目指します。 具体的にはKPOPグループの特徴である群舞のように揃ったダンス、そして溢れ出る魅力的な個性、そして自分自身をより良く見せるセルフプロモーション力です。これら全て大事なエッセンスなので、これらをトータル的に一年かけて指導していきます。						
到達目標	どこでも通用するプロアーティスト、プロダンサーの輩出。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月4日	講義・演習	リズム、アイソレ、振付等基礎トレーニングと完コピグループ分け(各チーム別曲)	基礎の復習。 完コピにおいてはグループ毎のテーマを決める。 振付班、構成班、衣装メイク班、カメラ構成班を決める
2	10月11日	講義・演習	リズム、アイソレ、振付等基礎トレーニングと完コピ制作	基礎の復習。 完コピにおいては各チーム課題点のブラッシュアップ。
3	10月18日	講義・演習	完コピ制作と中間発表	自分やチームに対する客観的評価を把握し、 改善策を考える。
4	10月25日	講義・演習	踊り込み	揃っていない箇所の改善を図りつつ、 仲間の魅力的な所作を学ぶ。
5	11月1日	講義・演習	完コピ制作、完コピ発表会	前期と比べ、自分がどのように変化したかを感じ、 次回の撮影会に向けて改善する。
6	11月8日	講義・演習	完コピ撮影会、動画公開会	自分のチームの作品を確認し、今後に向けた改善点を見つける。他チームの 作品からも刺激を受け、今後の参考にし次回以降更にいい見せ方が出来るよう 研究する。
7	11月15日	講義・演習	リズム、アイソレ、振付等基礎トレーニングと 公演に向けた説明及び準備	基礎の確認。公演に向けた準備。
8	11月22日	講義・演習	公演制作	内容の復習及び、次回リハーサルに向けた準備。
9	11月29日	講義・演習	公演制作	内容の復習及び、次回リハーサルに向けた準備。
10	12月6日	講義・演習	中間発表	中間発表を受け、 自分の課題を見つけその改善点を探る。
11	12月13日	講義・演習	最終調整	各自の課題点をリハーサルで解決できたか確認。 出来ない場合は改善点を探る。
12	12月20日	講義・演習	GP	本番同様の状況で、自分が思うパフォーマンスが出来たか動画で確認。 足りていないと感じる場合は徹底的に本番まで調整。
13	1月10日	講義・演習	公演本番	一年を通して自分がどう成長できたかフィードバックする。 今後のプランを考え今後の成長戦略を考える。
14	1月17日	講義・演習	イベント実践を通してKPOPのすべてを学ぶ	レポートの提出
15	1月31日	講義・演習	イベント実践を通してKPOPのすべてを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			ネットを使用し、検索や調査・動画サイトでKPOPについて研究する	
【使用教科書・教材・参考書】				
シューズ・タオル				

科目名	Group Vocal (1) Group Vocal B (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	潤豊 ・ 神崎絢乃
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	THE SOULMATICCSが主催するJASRA認定メンバーとして様々なコンサート、イベント、Recに参加。多方面で活躍中。						
授業の学習 内容	ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドについても習得する。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。 ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、 ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月19日	講義・演習	個人目標設定を行う	次の講義までに復習を要する
2	5月10日	講義・演習	腹式呼吸が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
3	5月17日	講義・演習	ステージでのマイクテクニックを知る	次の講義までに復習を要する
4	5月24日	講義・演習	リズムの仕組みを知る	次の講義までに復習を要する
5	5月31日	講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (アイソレーション、ヒット、ウォークアウト)	次の講義までに復習を要する
6	6月7日	講義・演習	簡単な動きをつけながら、 歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
7	6月14日	講義・演習	簡単なステップをつけながら、歌唱パフォーマンスを行う ことができる	次の講義までに復習を要する
8	6月21日	講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる(アイソレ ーション、ポップ、サイドスライド)	次の講義までに復習を要する
9	6月28日	講義・演習	振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを行う	次の講義までに復習を要する
10	7月5日	講義・演習	ステージパフォーマンスの流れを知る	次の講義までに復習を要する
11	7月12日	講義・演習	振り付け、構成付き歌唱パフォーマンスを 行うことができる	次の講義までに復習を要する
12	7月19日	講義・演習	試験	試験を終えての反省
13	8月23日	講義・演習	試験総括(改善点を知る)	これからに向けて自分の技量と向き合う
14	8月30日	講義・演習	イベント実践を通してステージパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
15	9月6日	講義・演習	イベント実践を通してステージパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持ってくる		
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード				

科目名	Group Vocal (2) Group Vocal A (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	潤豊 ・ 神崎絢乃
学科・コース	ダンス&アクターズ科(屋間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4単位)		
教員の略歴	THE SOULMATICCSが主催するJASRA認定メンバーとして様々なコンサート、イベント、Recに参加。多方面で活躍中。						
授業の学習 内容	ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドについても習得する。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。 ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、 ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月4日	講義・演習	歌唱時のフォームを意識することが出来る	次の講義までに復習を要する
2	10月11日	講義・演習	リズムを持続したまま歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
3	10月18日	講義・演習	リズム+グループを持続したまま歌唱 パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
4	10月25日	講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (アイソレーション、ポップ、フレックス)	次の講義までに復習を要する
5	11月1日	講義・演習	共鳴(胸部)について理解する	次の講義までに復習を要する
6	11月8日	講義・演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
7	11月15日	講義・演習	歌唱パフォーマンス時の体のバランスを 自分自身で整えることができる	次の講義までに復習を要する
8	11月22日	講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (アイソレーション、ストップ、エアポーズ)	次の講義までに復習を要する
9	11月29日	講義・演習	自分で振り付け、ステージパフォーマンスを 考えることができる	次の講義までに復習を要する
10	12月6日	講義・演習	自分で付けた振り付けに合わせて、 歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
11	12月13日	講義・演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める	次の講義までに復習を要する
12	12月20日	講義・演習	試験	試験を終えての反省
13	1月10日	講義・演習	試験総括(改善点を知る)	これからに向けて自分の技量と向き合う
14	1月17日	講義・演習	イベント実践を通してステージパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
15	1月31日	講義・演習	イベント実践を通してステージパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持ってくる		
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード				

科目名	Group Vocal (2) Group Vocal B (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	潤豊 ・ 神崎絢乃
学科・コース	ダンス&アクターズ科(屋間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4単位)		
教員の略歴	THE SOULMATICCSが主催するJASRA認定メンバーとして様々なコンサート、イベント、Recに参加。多方面で活躍中。						
授業の学習 内容	ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドについても習得する。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。 ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、 ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月4日	講義・演習	歌唱時のフォームを意識することが出来る	次の講義までに復習を要する
2	10月11日	講義・演習	リズムを持続したまま歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
3	10月18日	講義・演習	リズム+グループを持続したまま歌唱 パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
4	10月25日	講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (アイソレーション、ポップ、フレックス)	次の講義までに復習を要する
5	11月1日	講義・演習	共鳴(胸部)について理解する	次の講義までに復習を要する
6	11月8日	講義・演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
7	11月15日	講義・演習	歌唱パフォーマンス時の体のバランスを 自分自身で整えることができる	次の講義までに復習を要する
8	11月22日	講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (アイソレーション、ストップ、エアポーズ)	次の講義までに復習を要する
9	11月29日	講義・演習	自分で振り付け、ステージパフォーマンスを 考えることができる	次の講義までに復習を要する
10	12月6日	講義・演習	自分で付けた振り付けに合わせて、 歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
11	12月13日	講義・演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める	次の講義までに復習を要する
12	12月20日	講義・演習	試験	試験を終えての反省
13	1月10日	講義・演習	試験総括(改善点を知る)	これからに向けて自分の技量と向き合う
14	1月17日	講義・演習	イベント実践を通してステージパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
15	1月31日	講義・演習	イベント実践を通してステージパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持ってくる		
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード				

科目名	Group Vocal (1) Group Vocal A (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	潤豊 ・ 神崎絢乃
学科・コース	ダンス&アクターズ科(屋間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	THE SOULMATICCSが主催するJASRA認定メンバーとして様々なコンサート、イベント、Recに参加。多方面で活躍中。						
授業の学習 内容	ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドについても習得する。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。 ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、 ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月19日	講義・演習	個人目標設定を行う	次の講義までに復習を要する
2	5月10日	講義・演習	腹式呼吸が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
3	5月17日	講義・演習	ステージでのマイクテクニックを知る	次の講義までに復習を要する
4	5月24日	講義・演習	リズムの仕組みを知る	次の講義までに復習を要する
5	5月31日	講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (アイソレーション、ヒット、ウォークアウト)	次の講義までに復習を要する
6	6月7日	講義・演習	簡単な動きをつけながら、 歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
7	6月14日	講義・演習	簡単なステップをつけながら、歌唱パフォーマンスを行う ことができる	次の講義までに復習を要する
8	6月21日	講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる(アイソレーション、ポップ、サイドスライド)	次の講義までに復習を要する
9	6月28日	講義・演習	振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを行う	次の講義までに復習を要する
10	7月5日	講義・演習	ステージパフォーマンスの流れを知る	次の講義までに復習を要する
11	7月12日	講義・演習	振り付け、構成付き歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
12	7月19日	講義・演習	試験	試験を終えての反省
13	8月23日	講義・演習	試験総括(改善点を知る)	これからに向けて自分の技量と向き合う
14	8月30日	講義・演習	イベント実践を通してステージパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
15	9月6日	講義・演習	イベント実践を通してステージパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持ってくる		
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード				

科目名	MusicTheory(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 中澤頼子 渡辺由芽 小林由佳 正村恵 鈴木未夏
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)	
教員の略歴						
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、業界で共通の認識とされている楽譜の基礎知識が必要となる。本講義では、音楽理論といわれるそれらの内容について基礎から学び、卒業後には業界人として何事にも自信を持って取り組めるようにする。					
到達目標	音楽業界で飛びかう用語や楽譜の基礎知識を理解できるようになる。					
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月19日	講義・演習	楽譜の歴史、五線譜、クレフ	五線譜の各部名称とクレフ、音名を復習する
2	5月10日	講義・演習	音名	五線に書かれた音符の音名と鍵盤の位置が一致出来るように復習する
3	5月17日	講義・演習	音符、休符	音符、休符の表し方と連符を復習する
4	5月24日	講義・演習	拍子、複合拍子	小節線、単純拍子、複合・混合拍子、タイについて復習する
5	5月31日	講義・演習	反復記号	反復記号を学び、音源を聴き楽譜を追えるようにする
6	6月7日	講義・演習	スコアリーディング	1w～5wまでの復習をし理解度を高める
7	6月14日	講義・演習	中間テスト	1w～5wまでの復習をし理解度を高める
8	6月21日	講義・演習	メジャースケール	メジャースケールの仕組みを復習する（#系メジャースケール）
9	6月28日	講義・演習	メジャースケール	5度圏を用い、調号を用いてスケールを書けるようにする（b系メジャースケール）
10	7月5日	講義・演習	記譜法、臨時記号	調号と臨時記号の区別、臨時記号の効力を学び正しい楽譜が書けるようにする
11	7月12日	講義・演習	テンポ、強弱記号	速度記号、速度標語、強弱記号を復習する
12	7月19日	講義・演習	スコアリーディング	総復習をし、理解度を高める
13	8月23日	講義・演習	まとめ、期末予備テスト	復習、テスト対策を行い期末テストに備える
14	8月30日	講義・演習	期末テスト	復習、テスト対策を行い期末テストに備える
15	9月6日	講義・演習	テスト返却、復習	楽譜を見てKeyや雰囲気をつかむことができるようにする
準備学習 時間外学習			前回までの内容をワークを使って復習、次の内容に備える	
【使用教科書・教材・参考書】				
ゼロから始める音楽理論、「ゼロから始める音楽理論 ワークブック」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部				

科目名	MusicTheory(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 中澤頼子 渡辺由芽 小林由佳 正村恵 鈴木未夏
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)	
教員の略歴						
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、業界で共通の認識とされている楽譜の基礎知識が必要となる。本講義では、音楽理論といわれるそれらの内容について基礎から学び、卒業後には業界人として何事にも自信を持って取り組めるようにする。					
到達目標	音楽業界で飛びかう用語や楽譜の基礎知識を理解できるようになる。					
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月4日	講義・演習	マイナースケール	マイナースケールの仕組みを理解し、調号を用いてナチュラルマイナースケールが書けるよう復習する
2	10月11日	講義・演習	マイナースケール	ハーモニックマイナー、メロディックマイナーの特徴を理解し、スケールが書けるよう復習する
3	10月18日	講義・演習	近親調	それぞれの調の関係性を理解し復習する
4	10月25日	講義・演習	移調	五線を用いて移調が出来るようになる
5	11月1日	講義・演習	奏法	省略記号、奏法記号、装飾記号を復習する
6	11月8日	講義・演習	スコアリーディング	1w~5wまでの復習をし、理解度を高める
7	11月15日	講義・演習	中間テスト	復習、テスト対策を行い中間テストに備える
8	11月22日	講義・演習	トライアド	コードの概念とトライアドの構造を理解し復習する
9	11月29日	講義・演習	7thコード	トライアドの知識を踏まえ、7thコードに発展させることが出来るようになる
10	12月6日	講義・演習	7thコードの復習とdim7	トライアド、7thコード、dimコードの構造を復習する
11	12月13日	講義・演習	その他のコード	add9、sus4、6thコードを復習する
12	12月20日	講義・演習	スコアリーディング	総復習をし、理解度を高める
13	1月10日	講義・演習	まとめ、期末予備テスト	復習、テスト対策を行い期末テストに備える
14	1月17日	講義・演習	期末テスト	復習、テスト対策を行い期末テストに備える
15	1月31日	講義・演習	テスト返却、総復習	復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
ゼロから始める音楽理論、「ゼロから始める音楽理論 ワークブック」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部				

科目名	Ear Training(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 中澤頼子 渡辺由芽 小林由佳 正村恵 鈴木未夏
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)	
教員の略歴						
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、リズム感と音感が必要となる。本講義では聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き取り、実際に歌うなどしてソルフェージュの基礎を養う。卒業後には業界人として何事にも自信を持って取り組めるようにする。					
到達目標	聴こえる音やリズムを正しく判別できるようになる。					
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月21日	講義・演習	音の歴史、モールス信号、周波数、効果音について知る リズム打ち・書き取り方について知る 音の高低の判定	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるようにする
2	4月28日	講義・演習	4分音符、4分休符のリズム打ち 3拍子と4拍子のビート感覚を養う 2線紙を使って音の高低判定 2度音程を聞き音程感を身に付ける	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習する
3	5月12日	講義・演習	8分音符のリズム打ちと5線紙を使ってリズムの書き取り 3線紙を使って音の高低判定	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習する
4	5月19日	講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符のリズム打ち、リズムの書き取り、5線紙を使ってメロディーの書き取り 音程(全音と半音の区別)	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習する
5	5月26日	講義・演習	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱 音程(1.2.3.8度、#トなし)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
6	6月2日	講義・演習	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱ができる 音程(1.2.3.8度、#トあり)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
7	6月9日	講義・演習	中間テスト	今までの内容を復習し次回の授業に備える
8	6月16日	講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱 音程(4.5度#トなし)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
9	6月23日	講義・演習	8分休符(裏打ち)のリズム打ち、書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱 音程(1～5度8度、#トあり) トライトーン	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
10	6月30日	講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 音程(1～5度、8、6度)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
11	7月7日	講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 音程(1～8度)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
12	7月14日	講義・演習	4分音符、4分休符、8分音符、16分音符、8分休符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱、Major,minorのコード判定、音程(1～8度)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
13	8月25日	講義・演習	期末予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習する
14	9月1日	講義・演習	期末テスト	復習、テスト対策を行い期末テストに備える
15	9月8日	講義・演習	テスト返却、総復習	復習
準備学習 時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える	
【使用教科書・教材・参考書】				
ゼロから始める音楽理論、「ゼロから始める音楽理論 ワークブック」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部				

科目名	Ear Training(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 中澤頼子 渡辺由芽 小林由佳 正村恵 鈴木未夏
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)	
教員の略歴						
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、リズム感と音感が必要となる。本講義では聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き取り、実際に歌うなどしてソルフェージュの基礎を養う。卒業後には業界人として何事にも自信を持って取り組めるようにする。					
到達目標	聴こえる音やリズムを正しく判別できるようになる。					
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月6日	講義・演習	ET I で習ったリズム打ち・書き取り、マイナーkeyの視唱、CMajorのメロディー書き取り、Major,Minorのコード聴き分け	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習する
2	10月13日	講義・演習	3連符のリズム打ち・書き取り、マイナーkeyの視唱、CMajor,Minorのメロディー書き取り、コードの聴き分け(C,G,F)	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習する
3	10月20日	講義・演習	リズム打ち、コード付き(C,G,F)メロディー書き取り、CMajorのメロディーの書き取り(臨時記号付き)、マイナーkeyの視唱	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習する
4	10月27日	講義・演習	リズム打ち、コード付き(C,G,F)メロディー書き取り、CMajorのメロディーの書き取り(臨時記号付き)、マイナーkeyの視唱	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習する
5	11月3日	講義・演習	タイの付いたリズム打ち、コード付き(C,G,F)メロディー書き取り、CMajorのメロディーの書き取り、新曲視唱	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習する
6	11月17日	講義・演習	タイの付いたリズム打ち、コード付き(C,G,F)メロディー書き取り、CMajorのメロディーの書き取り、新曲視唱	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習する
7	11月24日	講義・演習	中間テスト	今までの内容を復習し次回の授業に備える
8	12月1日	講義・演習	6/8拍子・タイの付いたリズム打ち、コード付き(C,G,F)メロディー書き取り、ベース(F-clef)のメロディー書き取り	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習する
9	12月8日	講義・演習	タイ付き・6/8拍子のリズム打ち、コード付き(C,G,F)メロディー書き取り、ベース(F-clef)のメロディー書き取り	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習する
10	12月15日	講義・演習	タイ付き・6/8拍子のリズム打ち、コード付き(C,G,F)メロディー書き取り、ベース(F-clef)のメロディー書き取り	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習する
11	1月12日	講義・演習	タイ付き・6/8拍子のリズム打ち、メロディー書き取り、コード付き(C,G,F)メロディー書き取り、大譜表のメロディー書き取り	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習する
12	1月19日	講義・演習	タイ付き・6/8拍子のリズム打ち、メロディー書き取り、コード付き(C,G,F)メロディー書き取り、大譜表のメロディー書き取り	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習する
13	2月2日	講義・演習	期末予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習する
14	2月9日	講義・演習	期末テスト	復習、テスト対策を行い期末テストに備える
15	2月16日	講義・演習	テスト返却、総復習	復習
準備学習 時間外学習			前回の内容のリズム打ちや視唱を復習して次回に備える	
【使用教科書・教材・参考書】				
ゼロから始める音楽理論、「ゼロから始める音楽理論 ワークブック」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部				

科目名	IT講座(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	新名佐和子
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	<p>社会においてIT知識、広告・宣伝は欠かせないものであり、消費者として普段からよく目にするものでもある。 この科目の受講者自身には生活・ビジネスにおけるITの基礎知識を習得してもらいたい。 講義では、ビジネスマナーとしてのIT知識を学び、演習を中心に、制作現場で使用頻度の高いアプリケーションを用いて習得していく。</p>						
到達目標	<p>Macを自由に扱えるようになる。 メール作成などにおけるビジネスマナーの基礎知識を身につける。 Wordの基本操作ができるようになる。(文書作成) Excelの基本操作ができるようになる。(表作成、表計算) Keynote(Powerpoint)が扱えるようになる。</p>						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月19日	講義・演習	PCに関する理解①、ブラウザアプリ、メール設定、メール作成練習	授業で学んだツールの復習をする
2	5月10日	講義・演習	PCに関する理解②、クラウド利用、データの保存、管理	授業で学んだツールの復習をする
3	5月17日	講義・演習	【Word】基礎技術習得① 画面表示やツールを理解する お知らせ文書作成	授業で学んだツールの復習をする
4	5月24日	講義・演習	【Word】基礎技術習得② 自由なレイアウトで自己紹介作成	授業で学んだツールの復習をする
5	5月31日	講義・演習	【Word】基礎技術習得③ 表、段落、インデント、ヘッダーフッター、印刷	授業で学んだツールの復習し、終わらなかった分を完成させる
6	6月7日	講義・演習	【Excel】基礎技術習得① 画面表示やツールを理解する 表作成練習	授業で学んだツールの復習をする
7	6月14日	講義・演習	【Excel】基礎技術習得② 年間スケジュールを作成する	授業で学んだツールの復習し、終わらなかった分を完成させる
8	6月21日	講義・演習	【Excel】基礎技術習得③ 表計算を理解する 請求書を作成する	授業で学んだツールの復習し、終わらなかった分を完成させる
9	6月28日	講義・演習	【Excel】基礎技術習得④ リストの作成、グラフ作成を理解する	授業で学んだツールの復習し、終わらなかった分を完成させる
10	7月5日	講義・演習	【Keynote(Powerpoint)】基礎技術習得① 操作と仕組みを理解する	次週続きから始められるように、考えを整え素材などを準備する
11	7月12日	講義・演習	【Keynote(Powerpoint)】基礎技術習得② プレゼン資料を作成する	次週続きから始められるように、考えを整え素材などを準備する
12	7月19日	講義・演習	【Keynote(Powerpoint)】基礎技術習得② プレゼン資料を作成する 完成	授業で学んだツールの復習し、終わらなかった分を完成させる
13	8月23日	講義・演習	到達度テスト、解説	理解と技術の及ばなかった部分を復習する
14	8月30日	講義・演習	イベント実践を通してPCスキルの必要性、重要性を学ぶ	レポートを提出
15	9月6日	講義・演習	イベント実践を通してPCスキルの必要性、重要性を学ぶ	レポートを提出
準備学習 時間外学習		日頃からすべてのデータをきちんとファイリングし、丁寧に扱う練習をする		
【使用教科書・教材・参考書】				
Mac,Microsoft office,アプリケーション				

科目名	IT講座(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	新名佐和子
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	社会においてIT知識、広告・宣伝は欠かせないものであり、消費者として普段からよく目にするものでもある。 この科目の受講者自身にはビジネスにおけるIT知識、広告宣伝に使えるデザインの基礎知識を習得してもらいたい。 講義では、ビジネスマナーとしてのIT知識を学び、基礎的な広告宣伝が行えるようなデザイン技術を、演習を中心に、制作現場 で使用頻度の高いアプリケーションを用いて習得していく。						
到達目標	Macを自由に扱えるようになる。 Word(文書作成)、Excel(表作成、表計算)、Keynote(Powerpoint)を複合的に扱えるようになる。 初歩的な写真加工、レイアウト、Webサイト作成アプリを扱えるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月4日	講義・演習	Word、Excel、Keynoteの基本操作復習。ファイル圧縮、QRコード作成方法	授業で学んだツールの復習をする
2	10月11日	講義・演習	PCでの画像補正を習得する。カラーモード、解像度、保存形式を理解する。	授業で学んだツールの復習をする
3	10月18日	講義・演習	対外的なデータ作成のルール、保存方法、送付方法などを身につける。	授業で学んだツールの復習をする。自分の過去のデータの整理をする
4	10月25日	講義・演習	Adobe illustratorの操作方法を身につける① フリーフォント、版權を理解する	商用利用可能なフリーフォントで好きなものを探し、収集する
5	11月1日	講義・演習	Adobe illustratorの操作方法を身につける② 商用利用可能素材を理解する	商用利用可能な画像から好きなものを探し、収集する
6	11月8日	講義・演習	Adobe illustratorの操作方法を身につける③ フライヤー作成・完成	商用利用可能なベクターデータから好きなものを探し、収集する
7	11月15日	講義・演習	名刺を作成する。市販のプリント用紙に印刷する方法を身につける	授業で終わらなかった分を完成させる
8	11月22日	講義・演習	「STUDIO」でのWebサイト作成を身につける① 学んだ技術を複合的に扱う	制作に必要な資料、データの収集
9	11月29日	講義・演習	「STUDIO」でのWebサイト作成を身につける② 学んだ技術を複合的に扱う	制作に必要な資料、データの収集
10	12月6日	講義・演習	「STUDIO」でのWebサイト作成を身につける③ 学んだ技術を複合的に扱う	授業で終わらなかった分を完成させる
11	12月13日	講義・演習	身につけた技術を用い、自己プレゼン資料を作成する① (Keynote)	制作に必要な資料、データの収集
12	12月20日	講義・演習	身につけた技術を用い、自己プレゼン資料を作成する② (Keynote)	授業で終わらなかった分を完成させる
13	1月10日	講義・演習	到達度テスト、解説	理解と技術の及ばなかった部分を復習する
14	1月17日	講義・演習	イベント実践を通してPCスキルの必要性、重要性を学ぶ	レポートを提出
15	1月31日	講義・演習	イベント実践を通してPCスキルの必要性、重要性を学ぶ	レポートを提出
準備学習 時間外学習			日頃からすべてのデータをきちんとファイリングし、丁寧に扱う練習をする	
【使用教科書・教材・参考書】				
Mac,Microsoft office,Adobeアプリケーション				

科目名	JAZZ & BREAK (3) Jazz Hiphop(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	松永澤奈
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①「基礎体力の向上、怪我をしない身体作り、身体のパーツの使い方を習得する」 ②「jazz hip-hopというジャンルを通して表現者としての魅せ方も意識できるようにしていきたい」 ③「表現者として自分の魅力を最大限に出せるようになってほしい」 ④「毎週のレッスンの中でストレッチ、筋トレ、アイソレーションをビジュアルキューイング、バーバルキューイングにてしっかり指導を行う。」						
到達目標	「挨拶やスタジオの使い方などレッスンを受ける姿勢を理解し怪我をしない身体作り、身体のパーツの使い方を理解する。」						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月20日	講義・演習	演習を受ける姿勢、ストレッチの仕方を理解する。	授業の流れを理解し、向上心を高める。
2	4月27日	講義・演習	インナーマッスルの必要性を理解する。	授業で出た筋肉の名称を覚え 日々のストレッチや筋トレをより意識しながら取り組む。
3	5月11日	講義・演習	アイソレーション、上半身の動かし方の研究。	首、肩、上半身、のパーツと 1つ1つ動かせるように意識して練習。
4	5月18日	講義・演習	アイソレーション、上半身の動かし方の研究。 ベアになりサポートすることにより筋肉の構造を理解する。	ベアで行った学習での他人の体の構造を意識し 自分の体の感覚と使いかたをより意識できるようにする。
5	5月25日	講義・演習	アイソレーション、下半身の動かし方の研究。	骨盤、膝、足首、のパーツと 1つ1つ動かせるように意識して練習。
6	6月1日	講義・演習	アイソレーション、下半身の動かし方の研究。 ベアになりサポートすることにより筋肉の構造を理解する。	ベアで行った学習での他人の体の構造を意識し 自分の体の感覚と使いかたをより意識できるようにする。
7	6月8日	講義・演習	アイソレーション、 複数のパーツを同時に複雑な動かし方の研究。	上記の体のパーツの使い方を理解し 使いこなせるよう練習。
8	6月15日	講義・演習	リズムトレーニング、 アイソレをリズムに合わせて使う研究。	体を動かすにあたり音楽に合わせながら、 カウントに合わせてできるように練習する。
9	6月22日	講義・演習	上記の内容を生かした振りの研究。	与えられた振りの、体の使い方があるのか 復習をしながら確認する。
10	6月29日	講義・演習	テストに向けた振りを覚える。	講師に与えられた振りのポイントを理解し復習する。
11	7月6日	講義・演習	テストに向けた振りをより深く落とし込む。	振りを理解した上で魅せ方を研究し 表現できるように練習する。
12	7月13日	講義・演習	テスト	実技テストで実力を出せるよう復習をしてくる。
13	8月24日	講義・演習	テストを振り返り各自次のステップへの目標を立てる。	次のステップに進むために何が必要かを考え、 今後の目標を立てる。
14	8月31日	講義・演習	イベント実践を通して舞台上で踊る事を学ぶ	レポートの提出
15	9月7日	講義・演習	イベント実践を通して舞台上で踊る事を学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			レッスンでの予習復習をしてくる。	
【使用教科書・教材・参考書】 シューズ、タオル、動きやすい服装				

科目名	JAZZ & BREAK (4) Jazz Hiphop(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	松永澤奈
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①「基礎体力の向上、怪我をしない身体作り、身体のパーツの使い方を習得する」 ②「jazz hip-hopというジャンルを通して表現者としての魅せ方も意識できるようにしていきたい」 ③「表現者として自分の魅力を最大限に出せるようになってほしい」 ④「毎週のレッスンの中でストレッチ、筋トレ、アイソレーションをビジュアルキューイング、バーバルキューイングにてしっかり指導を行う。」						
到達目標	1手先、足先、体のラインなど正しい体の使い方を理解し使いこなせた上で習得した振りを自らの表現で表す事が出来る。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月5日	講義・演習	ストレッチや振りにおいて手先、足先を意識しながら末端まで意識を使う研究。	自宅でストレッチを行う際に足先手先を意識して取り組む。
2	10月12日	講義・演習	柔軟性を上げるためのストレッチ、キレを出すための筋トレ。	自宅など空いている時間で、ストレッチや筋トレを行う。
3	10月19日	講義・演習	稼動範囲や柔軟性の意識した振り付けの研究。	授業において出しきれない可動域に合わせて、ストレッチを行う。
4	10月26日	講義・演習	インナーマッスルを使いキレを意識した振り付けの研究。	パワーを出すために足りない筋肉を強化するため筋トレを行う。
5	11月2日	講義・演習	上記二つを習得した上で与えられた振りを自分で表現する。	体の使い方を今一度意識し足りないものを考え、課題を立てる。
6	11月16日	講義・演習	踊っているときの表情の研究。	自分が踊っている動画を見返し表情を見返す。
7	11月23日	講義・演習	幾つかのグループに分けて踊りを見せ合い、見て学び見られることで学ぶ。	他人の踊りを見て、表現する事についてより意識し表現できるようにしていく。
8	11月30日	講義・演習	振り付けにおいてフリーな部分を与え自分で作り表現する研究。	授業時間外でも様々な曲で振りを考え踊る練習をする。
9	12月7日	講義・演習	振りを習得し、後少人数でのグループに分け発表。	発表するにあたり、与えられた振りをより体に落とし込む。
10	12月14日	講義・演習	テストに向けた振りを与え。	講師に与えられた振りのポイントを理解し復習する。
11	12月21日	講義・演習	与えられた振りをより深く落とし込む。	振りを理解した上で魅せ方を研究し表現できるように練習する。
12	1月11日	講義・演習	テスト	実技テストで実力を出せるよう復習をしていく。
13	1月18日	講義・演習	テストを振り返り各自次のステップへの目標を立てる。	次のステップに進むために何が必要かを考え、今後の目標を立てる。
14	2月1日	講義・演習	イベント実践を通して舞台上で踊る事を学ぶ	レポートの提出
15	2月8日	講義・演習	イベント実践を通して舞台上で踊る事を学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			レッスンでの予習復習をしていく。	
【使用教科書・教材・参考書】				
シューズ、タオル、動きやすい服装				

科目名	Style JAZZ&パークダンサー(3) テーマパークB(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	石井直彦
学科・コース	ダンス&アクターズ科(屋間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年						
授業の学習 内容	①「なぜこの授業を受けなければならないのか？」 ②「どの科目と関係するのか、その位置づけ」 ③「学生にどうなって欲しいか」(講師の思い) ④①～③をふまえたような授業を展開するか、具体的に記載する						
到達目標	前期はどんな現場でも有効な確かな「基礎力」と「技術力」を見つける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月21日	講義・演習	テーマパークダンスとは何か考える	好きなショーを見てプレゼンしてもらう
2	4月28日	講義・演習	テーマパークダンスとは何か考える②	見たことないショーを見てくる
3	5月12日	講義・演習	豊かな表現をうむ腕の使い方	腕の使い方がきれいなダンサーをあげてもらう
4	5月19日	講義・演習	豊かな表現をうむ腕の使い方②	基本のポジションを覚える
5	5月26日	講義・演習	豊かな表現をうむ腕の使い方③	前回の復習をしてくる
6	6月2日	講義・演習	踊りの質を高めるための脚の使い方	リズムがかっこいいダンサーをあげてもらう
7	6月9日	講義・演習	踊りの質を高めるための脚の使い方②	足の使い方のパターンを考える
8	6月16日	講義・演習	踊りの質を高めるための脚の使い方③	前回の復習をしてくる
9	6月23日	講義・演習	魅力的な表情での踊り方	自分の好きなショーやダンサーを紹介
10	6月30日	講義・演習	魅力的な表情での踊り方②	自分の顔や体としっかり向き合う
11	7月7日	講義・演習	魅力的な表情での踊り方③	自分の好きな表情を見つける
12	7月14日	講義・演習	オーディション対策	自分に似合うオーディション着を選ぶ
13	8月25日	講義・演習	オーディション対策②	自分を思い切り表現する
14	9月1日	講義・演習	イベント実践を通して「人前に立つこと」を学ぶ	レポートの提出
15	9月8日	講義・演習	イベント実践を通して「人前に立つこと」を学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		YouTubeなどでテーマパークを見て学ぶ		
【使用教科書・教材・参考書】				
シューズ・レオタード				

科目名	Style JAZZ&パークダンサー(4) テーマパークB(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	石井直彦
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年						
授業の学習 内容	①プロのダンサーとなるための技術力・表現力・思考力を身につけるため ②他のいろんなジャンルのダンスや芝居、歌、などに通じる ③ただ「上手い」だけのダンサーではなく、心も豊かなエンターテイナーになってほしい ④ただ踊るだけではなく、考えて想像する時間を取り入れて、コミュニケーションをしっかりとる授業にしたい						
到達目標	質の高い「エンターテイナー」を目指す						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月6日	講義・演習	テーマパークダンスとは何か考える	テーマパークダンスについて考えて来てもらう
2	10月13日	講義・演習	テーマパークダンスとは何か考える	先週をふまえて、意見交換
3	10月20日	講義・演習	「エンターテインメント」とは何か考える	エンターテインメントについて考えて来てもらう
4	10月27日	講義・演習	「エンターテインメント」とは何か考える②	先週をふまえて意見交換
5	11月3日	講義・演習	ショーの世界観を表現する	好きなショーの好きな点などプレゼンしてもらう
6	11月17日	講義・演習	ショーの世界観を表現する②	知らなかったショーを見てくる
7	11月24日	講義・演習	役柄になりきる	好きなアニメやショーについて話す
8	12月1日	講義・演習	役柄になりきる②	なりきる役について調べる
9	12月8日	講義・演習	近くのお客さんに向けての表現	パレードなど映像でもいいので見てくる
10	12月15日	講義・演習	近くのお客さんに向けての表現②	レッスンも踏まえてもう一度パレードの映像をみる
11	1月12日	講義・演習	遠くのお客さんに向けての表現	大きなショーの映像を見てくる
12	1月19日	講義・演習	遠くのお客さんに向けての表現②	レッスンを踏まえて、もう一度映像を見る
13	2月2日	講義・演習	オーディション対策	自分を思い切り表現する
14	2月9日	講義・演習	イベント実践を通して「エンターテイナー」を学ぶ	レポートの提出
15	2月16日	講義・演習	イベント実践を通して「エンターテイナー」を学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		YouTubeなどでテーマパークを見て学ぶ		
【使用教科書・教材・参考書】				
シューズ・レオタード				

科目名	ミュージカルVT(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	石井直彦
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年						
授業の学習 内容	①自分に合った発声を知り、自らの力を伸ばすため ②演技で声を出すこと、ダンスでのリズムの取り方や音楽の聞き方にも繋がる ③正確に音楽を把握し、すべきことを具体的に理解した上で歌うことができるようになってほしい ④長所短所を含めた自分の声の癖や特徴を知り、ミュージカルナンバーを通してトレーニングの方法や楽曲を仕上げる過程を学ぶ						
到達目標	・負担のない発声で歌うことができる ・演劇表現の一つとしての楽曲を歌うことができる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月19日	講義・演習	個人の声を把握するため簡単な発声	発声をする前後のコンディションのチェック
2	5月10日	講義・演習	ウィークポイントの強化に向けた発声①	授業で行った発声内容の復習
3	5月17日	講義・演習	ウィークポイントの強化に向けた発声②	発声をする前後のコンディションのチェック
4	5月24日	講義・演習	発声・課題曲①の説明	課題曲①の音源を聴く
5	5月31日	講義・演習	発声・課題曲①の歌詞の理解と音取り	課題曲①の歌詞を声に出して読む
6	6月7日	講義・演習	発声・課題曲①の分析と歌唱	課題曲①の音程確認
7	6月14日	講義・演習	発声・課題曲①の歌唱とフィードバック	課題曲①の練習
8	6月21日	講義・演習	発声・課題曲①の歌唱とフィードバック	課題曲①の練習
9	6月28日	講義・演習	発声・課題曲②の歌詞の理解と音取り	課題曲②の音源を聴く
10	7月5日	講義・演習	発声・課題曲②の分析と歌唱	課題曲②の歌詞を声に出して読む・歌詞の内容の把握
11	7月12日	講義・演習	発声・課題曲②の歌唱とフィードバック	課題曲②の練習
12	7月19日	講義・演習	課題曲②のソロ歌唱	課題曲②の練習
13	8月23日	講義・演習	課題曲②のソロ歌唱	課題曲②の練習
14	8月30日	講義・演習	イベント実践を通して人前で表現することを学ぶ	レポートの提出
15	9月6日	講義・演習	イベント実践を通して人前で表現することを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		・授業で行った発声練習の復習 ・課題曲が出た際—歌詞の理解、ミュージカルナンバーの場合、曲が使われている作品の内容の把握をする。		
【使用教科書・教材・参考書】				
楽譜・筆記用具・メモ帳				

科目名	ミュージカルVT(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	石井直彦
学科・コース	ダンス&アクターズ科(屋間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年						
授業の学習 内容	①自分に合った発声を知り、自らの力を伸ばすため ②演技で声を出すこと、ダンスでのリズムの取り方や音楽の聞き方にも繋がる ③正確に音楽を把握し、すべきことを具体的に理解した上で歌うことができるようになってほしい ④長所短所を含めた自分の声の癖や特徴を知り、ミュージカルナンバーを通してトレーニングの方法や楽曲を仕上げる過程を学ぶ						
到達目標	・負担のない発声で歌うことができる ・演劇表現の一つとしての楽曲を歌うことができる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月4日	講義・演習	発声・課題曲③の歌詞の理解と音取り	前期に行った発声内容の確認、反復練習
2	10月11日	講義・演習	発声・課題曲③の分析と歌唱	課題曲③の音程確認
3	10月18日	講義・演習	発声・課題曲③の歌唱とフィードバック	課題曲③の練習
4	10月25日	講義・演習	発声・課題曲③の歌唱とフィードバック	課題曲③の練習
5	11月1日	講義・演習	発声・課題曲(ソロ)の決定	課題曲(ソロ)の候補探し
6	11月8日	講義・演習	発声・個人課題曲の練習(音程・発声・リズム)	課題曲の練習(歌詞の内容、音程)
7	11月15日	講義・演習	発声・個人課題曲の練習(音程・発声・リズム)	課題曲の練習(歌詞の内容、音程)
8	11月22日	講義・演習	発声・個人課題曲の練習(歌詞の内容)	課題曲の練習(表現)
9	11月29日	講義・演習	発声・個人課題曲の練習(歌詞の内容)	課題曲の練習(表現)
10	12月6日	講義・演習	個人課題曲の歌唱とフィードバック	課題曲の練習(パフォーマンス)
11	12月13日	講義・演習	個人課題曲の歌唱とフィードバック	フィードバック内容についての練習
12	12月20日	講義・演習	個人課題曲ソロ歌唱	課題曲の練習
13	1月10日	講義・演習	個人課題曲ソロ歌唱	課題曲の練習
14	1月17日	講義・演習	イベント実践を通してパフォーマンスを向上させることを学ぶ	レポートの提出
15	1月31日	講義・演習	イベント実践を通してパフォーマンスを完成させることを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		<small>・授業で行った発声練習の復習 ・課題曲が出た際一歌詞の理解、ミュージカルナンバーの場合、曲が使われている作品の内容の把握をする。</small>		
【使用教科書・教材・参考書】				
楽譜・筆記用具・メモ帳				

科目名	POP(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 石井直彦 ・ 村上美来
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)	
教員の略歴	石井:NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年 村上:POP ダンスインストラクター歴5年					
授業の学習 内容	①歴史、成り立ちを学びダンスへの理解を深めると共に 実践することで、様々なジャンルのダンスに活かすことができる ②ストリートダンス全般には必須 ③POPというジャンル、オールドスクール全般に興味を持ち 今後のダンスライフへ繋がっていかねばと思っています。 ④基礎からの学びはもちろん、実践のみならずそのムーブがどのようにできたのかを平行して授業することで 技術・知識ともにあるダンサー育成を目指します。					
到達目標	一つ一つのムーブと成り立ちを理解しながら、振り付けのみならずフリーでもPOPの要素を取り入れられるようにする					
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義・演習	POPとはどんなものなのかを知る。ヒット部位と使い方	ヒット練習
2	5月9日	講義・演習	POPとヒットの違いと使い分け	POPとヒットの使い分けを実践練習
3	5月16日	講義・演習	重心移動、軸の使い方	軸移動の理解を深める為の軸移動実践練習
4	5月23日	講義・演習	アップを取り入れながらのムーブ	アップのリズムキープしながらヒットする練習
5	5月30日	講義・演習	ハンドウエーブ、その応用	ハンドウエーブの練習
6	6月6日	講義・演習	ボディウエーブ、その応用	ボディウエーブの練習
7	6月13日	講義・演習	1-6までの復習と、それを踏まえてのルーティン	それぞれのムーブの名前とムーブの復習
8	6月20日	講義・演習	ツイスト、フレックス(ツイストオーフレックス)	ツイストとフレックスの違いを理解、使い分け練習
9	6月27日	講義・演習	ネックオーフレックスについて	首と首から下の使い方の理解と復習
10	7月4日	講義・演習	下半身メインのフレックスと上半身の使い分け	下半身のフレックス、足裏の使い方の復習
11	7月11日	講義・演習	ストップ、空間移動の使い方	ストップのためのスタマック、首のヒットの強化
12	7月18日	講義・演習	ロール全般	首から膝までのロール復習
13	8月22日	講義・演習	全てのまとめ、復習とルーティン	全てのムーブ名の復習と、それらのムーブを繋げてのフリーで踊る練習
14	8月29日	講義・演習	イベント実践を通してPOPの楽しさを学ぶ	レポートの提出
15	9月5日	講義・演習	イベント実践を通してPOPの楽しさを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		Youtubeなどを見てPOPを学ぶ、踊ってみる。		
【使用教科書・教材・参考書】				
シューズ・タオル				

科目名	POP(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 石井直彦 ・ 村上美来
学科・コース	ダンス&アクターズ科(屋間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)	
教員の略歴	石井:NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年 村上:POP ダンスインストラクター歴5年					
授業の学習 内容	①歴史、成り立ちを学びダンスへの理解を深めると共に 実践することで、様々なジャンルのダンスに活かすことができる ②ストリートダンス全般には必須 ③POPというジャンル、オールドスクール全般に興味を持ち 今後のダンスライフへ繋がっていかねばと思っています。 ④基礎からの学びはもちろん、実践のみならずそのムーブがどのようにできたのかを平行して授業することで 技術・知識ともにあるダンサー育成を目指します。					
到達目標	一つ一つのムーブと成り立ちを理解しながら、振り付けのみならずフリーでもPOPの要素を取り入れられるようにする					
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	前期授業のムーブの復習・そのルーティン	前期学んだムーブ名とムーブの復習
2	10月10日	講義・演習	ウォークアウトとその応用	ウォークアウトで気をつけるべき点とシルエットの復習
3	10月17日	講義・演習	ダイムストップとムーブへの取り入れ方のバリエーション	ダイムストップでのストマックのヒットの質上げ練習
4	10月24日	講義・演習	ダブルヒット、力の抜き入れのパターン	ダブルヒットの練習
5	10月31日	講義・演習	ボトムファースト、向きと応用	ボトムファーストの意味と、上下半身の使い分けの練習
6	11月7日	講義・演習	マスターオーフレックス	マスターオーフレックスの順番と注意点の確認
7	11月14日	講義・演習	1-6までの復習と、それを踏まえてのルーティン	1-6までのムーブ名とムーブの注意点の確認・復習
8	11月21日	講義・演習	フリーで踊るためのpop要素の取り入れ方	popを用いたフリームーブの練習
9	11月28日	講義・演習	バウンス、スウィングでの抜き方	音に対してバウンス、スウィングでアプローチするフリームーブの練習
10	12月5日	講義・演習	リズムキープしながらのヒット・popの使い分け 応用	リズムキープしながら打つ練習
11	12月12日	講義・演習	14スタイルを繋げての知識・ムーブの確認	14スタイルの名前・ムーブの復習
12	12月19日	講義・演習	前期、後期授業のまとめ チーム分けしての振り・構成作り①	ルーティンの練習
13	1月9日	講義・演習	前期、後期授業のまとめ チーム分けしての振り・構成作り②と発表会	ルーティンの練習・全ムーブの名称、注意点の確認
14	1月16日	講義・演習	イベント実践を通してムーブの繋ぎや流れのコツを学ぶ	レポートの提出
15	1月30日	講義・演習	イベント実践を通して歴史と基礎の大切さを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		Youtubeなどを見てPOPを学ぶ、踊ってみる。		
【使用教科書・教材・参考書】				
シューズ・タオル				

科目名	K-POP VT(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 石井直彦 ハ・ドンウク
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)	
教員の略歴	石井:NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年 ハ・ドンウク:K-POPヴォーカル講師、韓国語講師					
授業の学習 内容	①韓国でアイドル、歌手として必要な基本的な発音、発声と中心とする基礎的な事を習得する必要がある ②KPOPボーカル、ダンスボーカル、ラップに共通する基礎的レッスンが必要とする ③人前で自分の実力を最大限に出せる精神力、技術を身につけると共に、海外でも活躍できる社会性をも身につけて欲しい。					
到達目標	歌詞に出てくる基礎的な韓国語を正しい発声で読むことができ、人前でのパフォーマンスを恥じらいなく、じぶんの実力を表現できるようになる 評価					
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月19日	講義・演習	授業の説明、課題曲+D12:K20使った実際の進め方、学習の仕方	基礎の復習。 完コピにおいてはグループ毎のテーマを決める。 振付班、構成班、衣装メイク班を決める
2	5月10日	講義・演習	発声練習、課題曲1の解釈	基礎の復習。 完コピにおいては各チーム課題点のブラッシュアップ。
3	5月17日	講義・演習	課題曲を使ったレベルチェック	自分やチームに対する客観的評価を把握し、改善策を考える。
4	5月24日	講義・演習	課題曲2のハングルの練習、楽曲解釈	揃っていない箇所の改善を図りつつ、仲間の魅力的な所作を学ぶ。
5	5月31日	講義・演習	課題曲2のグループレッスン、発声レッスン	完コピを通して自分の課題点を把握し、その改善策を考える。 また完コピ制作において自分がどういった役割が出来たか、チームにおいての自分の役割についても考え直し今後についても考える。
6	6月7日	講義・演習	課題曲3のハングルの練習、楽曲解釈	基礎の復習。 完コピにおいてはグループ毎のテーマを決める。 振付班、構成班、カメラ構成班、衣装メイク班を決める
7	6月14日	講義・演習	課題曲3のグループレッスン、発声レッスン	基礎の復習。 完コピにおいては各チーム課題点のブラッシュアップ。
8	6月21日	講義・演習	課題曲4のハングルの練習、楽曲解釈	自分やチームに対する客観的評価を把握し、改善策を考える。撮影プランも練り直す。
9	6月28日	講義・演習	課題曲4のグループレッスン、発声レッスン	仮撮影した画角を見て改めて撮影プランを練り直す。 踊りの揃っていない部分の確認
10	7月5日	講義・演習	課題曲5のハングルの練習、楽曲解釈	自分のチームの作品を確認し、今後に向けた改善点を見つける。
11	7月12日	講義・演習	課題曲5のグループレッスン、発声レッスン	他チームの作品からも刺激を受け、今後の参考にし次回以降更にいい見せ方が出来るよう研究する。
12	7月19日	講義・演習	テスト前リハーサル	時間が短いので間に合っていない制作は時間外にまとめる
13	8月23日	講義・演習	中間実技テスト	振付制作の難しさを学び、今後に向けた映像資料を探し、休みの期間にそれを見て学んでおく。
14	8月30日	講義・演習	イベント実践を通してKPOPのすべてを学ぶ	レポートの提出
15	9月6日	講義・演習	イベント実践を通してKPOPのすべてを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			ネットを使用し、検索や調査・動画サイトでKPOPについて研究する	
【使用教科書・教材・参考書】				
筆記用具・必要であればタオル				

科目名	K-POP VT(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員 石井直彦 ハ・ドンウク
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)	
教員の略歴	石井:NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年 ハ・ドンウク:K-POPヴォーカル講師、韓国語講師					
授業の学習 内容	①韓国でアイドル、歌手として必要な基本的な発音、発声と中心とする基礎的な事を習得する必要がある ②KPOPボーカル、ダンスボーカル、ラップに共通する基礎的レッスンが必要とする ③人前で自分の実力を最大限に出せる精神力、技術を身につけると共に、海外でも活躍できる社会性をも身につけて欲しい。					
到達目標	歌詞に出てくる基礎的な韓国語を正しい発声で読むことができ、人前でパフォーマンスを恥じらいなく、じぶんの実力を表現できるようになる 評価					
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月4日	講義・演習	授業の説明、課題曲+D12:K20使った実際の進め方、学習の仕方	基礎の復習。 完コピにおいてはグループ毎のテーマを決める。 振付班、構成班、衣装メイク班を決める
2	10月11日	講義・演習	発声練習、課題曲1の解釈	基礎の復習。 完コピにおいては各チーム課題点のブラッシュアップ。
3	10月18日	講義・演習	課題曲を使ったレベルチェック	自分やチームに対する客観的評価を把握し、改善策を考える。
4	10月25日	講義・演習	課題曲2のハングルの練習、楽曲解釈	揃っていない箇所の改善を図りつつ、仲間の魅力的な所作を学ぶ。
5	11月1日	講義・演習	課題曲2のグループレッスン、発声レッスン	完コピを通して自分の課題点を把握し、その改善策を考える。 また完コピ制作において自分がどういった役割が出来たか、チームにおいての自分の役割についても考え直し今後についても考える。
6	11月8日	講義・演習	課題曲3のハングルの練習、楽曲解釈	基礎の復習。 完コピにおいてはグループ毎のテーマを決める。 振付班、構成班、カメラ構成班、衣装メイク班を決める
7	11月15日	講義・演習	課題曲3のグループレッスン、発声レッスン	基礎の復習。 完コピにおいては各チーム課題点のブラッシュアップ。
8	11月22日	講義・演習	課題曲4のハングルの練習、楽曲解釈	自分やチームに対する客観的評価を把握し、改善策を考える。撮影プランも練り直す。
9	11月29日	講義・演習	課題曲4のグループレッスン、発声レッスン	仮撮影した画角を見て改めて撮影プランを練り直す。 踊りの揃っていない部分の確認
10	12月6日	講義・演習	課題曲5のハングルの練習、楽曲解釈	自分のチームの作品を確認し、今後に向けた改善点を見つける。
11	12月13日	講義・演習	課題曲5のグループレッスン、発声レッスン	他チームの作品からも刺激を受け、今後の参考にし次回以降更にいい見せ方が出来るよう研究する。
12	12月20日	講義・演習	テスト前リハーサル	時間が短いので間に合っていない制作は時間外にまとめる
13	1月10日	講義・演習	中間実技テスト	振付制作の難しさを学び、今後に向けた映像資料を探し、休みの期間にそれを見て学んでおく。
14	1月17日	講義・演習	イベント実践を通してKPOPのすべてを学ぶ	レポートの提出
15	1月31日	講義・演習	イベント実践を通してKPOPのすべてを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			ネットを使用し、検索や調査・動画サイトでKPOPについて研究する	
【使用教科書・教材・参考書】				
筆記用具・必要であればタオル				

科目名	Media Artプロジェクト(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	石井直彦
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年						
授業の学習 内容	テクノロジーエンターテインメントの事例を学びながら、身体表現(ダンス、パントマイム、アクロバット、イリュージョン)とテクノロジーを掛け合わせる方法を学び、研究、開発をする。						
到達目標	「身体表現」「テクノロジー」「アイデア」の3種類のレッスンを、「自分らしさ」「自分しかできない」新しい組み合わせのエンターテインメントの創出、「思いつく」「作る」「表現する」ができる総合エンターテインメントの育成を目指す。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月22日	講義・演習	「アイデア」の出し合い	なぜこの授業を選択したのかを意識的に確認する
2	4月29日	講義・演習	「身体」を使つての表現する	フィジカルを活かすための対話
3	5月13日	講義・演習	「技術」を取り入れる	それぞれに出来る様になったことを共有する
4	5月20日	講義・演習	3要素の「技術」「身体」「アイデア」を学ぶ	自分自身何がこの授業で出来るようになったのかを自覚する
5	5月27日	講義・演習	プロジェクトマッピングを学ぶ	それぞれに出来る様になったことを共有する
6	6月3日	講義・演習	プロジェクトマッピングとダンスを学ぶ	理解し深めてくる
7	6月10日	講義・演習	プロジェクトマッピングとダンスの確認	それぞれに出来る様になったことを共有する
8	6月17日	講義・演習	テクノロジーとエンターテインメントの方法	それぞれに出来る様になったことを共有する
9	6月24日	講義・演習	融合と方法	前回からの成長を自身が感じられるまでやりこむ
10	7月1日	講義・演習	作品振付を考える	振付を理解し深めてくる
11	7月8日	講義・演習	作品を形つける	お互いの踊りを見て感じたことを考える
12	7月15日	講義・演習	作品の発表	ステージングの意味を理解する
13	8月26日	講義・演習	「5G」通信を使ったエンターテインメントの方法	理解し深めてくる
14	9月2日	講義・演習	イベント実践を通してパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
15	9月9日	講義・演習	イベント実践を通してパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		Youtubeなどで色々なジャンルを観る。知る。触れる。		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Media Artプロジェクト(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	石井直彦
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	NYのEarl Mosley氏ダンスカンパニーメンバー、国内スタジオ(BDCなど)でのモダン/コンテンポラリー講師歴20年						
授業の学習 内容	テクノロジーエンターテイメントの事例を学びながら、身体表現(ダンス、パントマイム、アクロバット、イリュージョン)とテクノロジーを掛け合わせる方法を学び、研究、開発をする。 前期で学んだことを形にし実際に発表する						
到達目標	アイデア出しから構成演出振り付けを行いテクノロジーを活かした作品を完成させる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月7日	講義・演習	前期の復習	なぜこの授業を選択したのかを意識的に確認する
2	10月14日	講義・演習	「アイデア」の出し合い	知識を活かすための対話
3	10月21日	講義・演習	「技術」を取り入れる	それぞれに出来る様になったことを共有する
4	10月28日	講義・演習	構成・演出を決める	話し合いの内容を確認する
5	11月4日	講義・演習	楽曲決め	各自楽曲を調べる
6	11月18日	講義・演習	プロジェクトマッピングとダンスの振り付けを行う	振り付けの確認
7	11月25日	講義・演習	プロジェクトマッピングの応用	マッピング資料を確認する
8	12月2日	講義・演習	テクノロジーとエンターテイメントの表現方法	今後のエンターテインメント業界について考える
9	12月9日	講義・演習	作品全体の確認	前回からの成長を自身で感じられるまでやりこむ
10	12月16日	講義・演習	作品のフィードバック	振付を理解し深めてくる
11	1月13日	講義・演習	作品を形つける	お互いの踊りを見て感じたことを考える
12	1月20日	講義・演習	作品の通し稽古と話し合い	ステージングの意味を理解する
13	2月3日	講義・演習	作品の発表	反省と改善
14	2月10日	講義・演習	イベント実践を通してパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
15	2月17日	講義・演習	イベント実践を通してパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			Youtubeなどで色々なジャンルを観る。知る。触れる。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	K-POP DANCE (3) KPOP プロジェクト(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	松永滯奈
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4単位)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	KPOPアーティストや、KPOPバックダンサーに必要なスキルの習得を目指します。 具体的にはKPOPグループの特徴である群舞のように揃ったダンス、そして溢れ出る魅力的な個性、そして自分自身をより良く見せるセルフプロモーション力です。これら全て大事なエッセンスなので、これらをトータル的に一年かけて指導していきます。						
到達目標	どこでも通用するプロアーティスト、プロダンサーの輩出。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月19日	講義・演習	リズム、アイソレ、振付等基礎トレーニングとグループ分けによる完コビ(BOYSグループ)の制作	基礎の復習。 完コビにおいてはグループ毎のテーマを決める。 振付班、構成班、衣装メイク班を決める
2	5月10日	講義・演習	リズム、アイソレ、振付等基礎トレーニングと完コビ制作	基礎の復習。 完コビにおいては各チーム課題点のブラッシュアップ。
3	5月17日	講義・演習	完コビ制作と中間発表	自分やチームに対する客観的評価を把握し、 改善策を考える。
4	5月24日	講義・演習	踊り込み	揃っていない箇所の改善を図りつつ、仲間の魅力的な所作を学ぶ。
5	5月31日	講義・演習	完コビ発表会	完コビを通して自分の課題点を把握し、その改善策を考える。 また完コビ制作において自分がどういった役割が出来た
6	6月7日	講義・演習	リズム、アイソレ、振付等基礎トレーニング	基礎の復習。 完コビにおいてはグループ毎のテーマを決める。 振付班、構成班、カメラ構成班、衣装メイク班を決める
7	6月14日	講義・演習	リズム、アイソレ、振付等基礎トレーニングと完コビ制作	基礎の復習。 完コビにおいては各チーム課題点のブラッシュアップ。
8	6月21日	講義・演習	完コビ制作と中間発表(発表の際、各チーム撮影プランも併せてプレゼンテーション)	自分やチームに対する客観的評価を把握し、改善策を考える。撮影プランも練り直す。
9	6月28日	講義・演習	動画撮影に向けたロケハン及び完コビ制作	仮撮影した画角を見て改めて撮影プランを練り直す。 踊りの揃っていない部分の確認
10	7月5日	講義・演習	完コビ動画撮影会	自分のチームの作品を確認し、 今後に向けた改善点を見つける。
11	7月12日	講義・演習	動画公開会、リズムアイソレ振付等の基礎トレーニング、次回制作に向けたグループ発表	他チームの作品からも刺激を受け、今後の参考にし 次回以降更にいい見せ方が出来るよう研究する。
12	7月19日	講義・演習	オリジナル作品制作(1コーラスのみ)	時間が短いので間に合っていない制作は 時間外にまとめる
13	8月23日	講義・演習	作品制作及び発表会	振付制作の難しさを学び、今後に向けた映像資料を探し、 休みの期間にそれを見て学んでおく。
14	8月30日	講義・演習	イベント実践を通してKPOPのすべてを学ぶ	レポートの提出
15	9月6日	講義・演習	イベント実践を通してKPOPのすべてを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			ネットを使用し、検索や調査・動画サイトでKPOPについて研究する	
【使用教科書・教材・参考書】				
シューズ・タオル				

科目名	K-POP DANCE (4) KPOP プロジェクト(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	松永澤奈
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4単位)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	KPOPアーティストや、KPOPバックダンサーに必要なスキルの習得を目指します。 具体的にはKPOPグループの特徴である群舞のように揃ったダンス、そして溢れ出る魅力的な個性、そして自分自身をより良く見せるセルフプロモーション力です。これら全て大事なエッセンスなので、これらをトータル的に一年かけて指導していきます。						
到達目標	どこでも通用するプロアーティスト、プロダンサーの輩出。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月4日	講義・演習	リズム、アイソレ、振付等基礎トレーニングと完コピグループ分け(各チーム別曲)	基礎の復習。 完コピにおいてはグループ毎のテーマを決める。 振付班、構成班、衣装メイク班、カメラ構成班を決める
2	10月11日	講義・演習	リズム、アイソレ、振付等基礎トレーニングと完コピ制作	基礎の復習。 完コピにおいては各チーム課題点のブラッシュアップ。
3	10月18日	講義・演習	完コピ制作と中間発表	自分やチームに対する客観的評価を把握し、 改善策を考える。
4	10月25日	講義・演習	踊り込み	揃っていない箇所の改善を図りつつ、 仲間の魅力的な所作を学ぶ。
5	11月1日	講義・演習	完コピ制作、完コピ発表会	前期と比べ、自分がどのように変化したかを感じ、 次回の撮影会に向けて改善する。
6	11月8日	講義・演習	完コピ撮影会、動画公開会	自分のチームの作品を確認し、今後に向けた改善点を見つける。 他チームの作品からも刺激を受け、今後の参考にし 次回以降更にいい見せ方が出来るよう研究する。
7	11月15日	講義・演習	リズム、アイソレ、振付等基礎トレーニングと公演に向けた説明及び準備	基礎の確認。公演に向けた準備。
8	11月22日	講義・演習	公演制作	内容の復習及び、次回リハーサルに向けた準備。
9	11月29日	講義・演習	公演制作	内容の復習及び、次回リハーサルに向けた準備。
10	12月6日	講義・演習	中間発表	中間発表を受け、 自分の課題を見つけその改善点を探る。
11	12月13日	講義・演習	最終調整	各自の課題点をリハーサルで解決できたか確認。 出来ない場合は改善点を探る。
12	12月20日	講義・演習	GP	本番同様の状況で、自分が思うパフォーマンスが出来たか動画で確認。 足りてないと感じる場合は徹底的に本番まで調整。
13	1月10日	講義・演習	公演本番	一年を通して自分がどう成長できたかフィードバックする。 今後のプランを考え今後の成長戦略を考える。
14	1月17日	講義・演習	イベント実践を通してKPOPのすべてを学ぶ	レポートの提出
15	1月31日	講義・演習	イベント実践を通してKPOPのすべてを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			ネットを使用し、検索や調査・動画サイトでKPOPについて研究する	
【使用教科書・教材・参考書】				
シューズ・タオル				

科目名	K-POP DANCE (3) LOCK(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	松永滯奈
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ストリートダンスの原点とも言えるLOCKは今も様々な場面で役立つ為 ②ヒップホップはもちろん、ジャズやポップなどともリンクする動きやノリがある ③LOCKや音楽を好きになってほしい ④LOCKを踊れることのみならず、ダンス人生に活かしてもらえるよう有意義に指導する						
到達目標	LOCKの基本的な動きを習得すること。またそれを使いこなし、フリーで踊ったり簡単な振付を作れるようになること						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月19日	講義・演習	LOCKの基礎ムーブ①	YouTubeなどを観てLOCKのイメージを持つ
2	5月10日	講義・演習	LOCKの基礎ムーブ②	YouTubeなどを観てLOCKのイメージを持つ
3	5月17日	講義・演習	リズム&アイソレーション	FUNKミュージックの定番を聴き込んでリズムに慣れておく
4	5月24日	講義・演習	リズム&基礎ムーブ	FUNKミュージックの定番を聴き込んでリズムに慣れておく
5	5月31日	講義・演習	コンビネーション	ここまで習った基礎をおさらいしておく
6	6月7日	講義・演習	遊びを混ぜて踊る	YouTubeなどを観てLOCKのイメージを持つ
7	6月14日	講義・演習	フロアを混ぜて踊る	YouTubeなどを観てLOCKのイメージを持つ
8	6月21日	講義・演習	アクロバットを混ぜて踊る	YouTubeなどを観てLOCKのイメージを持つ
9	6月28日	講義・演習	ここまでのおさらい	ここまで習った基礎をおさらいしておく
10	7月5日	講義・演習	フリーで踊ろう	短くてもいいのでフリーで踊ってみる
11	7月12日	講義・演習	振りを作ろう	短くてもいいので振りを作ってみる
12	7月19日	講義・演習	試験の課題を提示	ここまで習ったことを発表できるよう準備しておく
13	8月23日	講義・演習	試験の実施	ここまでの成果を出し切れるよう練習やイメトレを重ねておく
14	8月30日	講義・演習	イベント実践を通してLOCKの楽しさを学ぶ	レポートの提出
15	9月6日	講義・演習	イベント実践を通してLOCKの魅せ方を学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習			レッスン時に使用した音楽や知識を確実に身につけていく。YouTubeやネットの記事も参照すること	
【使用教科書・教材・参考書】				
シューズ、タオル				

科目名	K-POP DANCE (4) LOCK(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	松永滯奈
学科・コース	ダンス&アクターズ科(昼間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ストリートダンスの原点とも言えるLOCKは今も様々な場面で役立つ為 ②ヒップホップはもちろん、ジャズやポップなどともリンクする動きやノリがある ③LOCKや音楽を好きになってほしい ④LOCKを踊れることのみならず、ダンス人生に活かしてもらえるよう有意義に指導する						
到達目標	LOCKの基本的な動きを習得すること。またそれを使いこなし、フリーで踊ったり簡単な振付を作れるようになること						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月4日	講義・演習	LOCK基礎の復習	前期の復習をしておく
2	10月11日	講義・演習	LOCK応用(ステップの変化)	基礎の復習をしておく
3	10月18日	講義・演習	LOCK応用(リズムの変化)	基礎の復習をしておく
4	10月25日	講義・演習	フリーで踊ろう	YouTubeを見たり実際にフリーで踊って準備しておく
5	11月1日	講義・演習	ゲーム形式で踊ろう	基礎の復習をしておく
6	11月8日	講義・演習	オリジナルムーブを作ろう	応用まで復習しておく
7	11月15日	講義・演習	ここまでのまとめ	ここまでのおさらいをしておく
8	11月22日	講義・演習	実践:振り創り	ここまでのおさらいをしておく
9	11月29日	講義・演習	実践:模擬バトル	バトルの映像を見たり、実践して準備しておく
10	12月6日	講義・演習	テストの課題の提示	ここまでのおさらいをしておく
11	12月13日	講義・演習	テストに向けての指導	前週の確認をしておく
12	12月20日	講義・演習	プレテスト	テストの準備をしておく
13	1月10日	講義・演習	テスト	ここまでの成果を出せるよう準備しておく
14	1月17日	講義・演習	イベント実践を通してLOCKの楽しさを学ぶ	レポートの提出
15	1月31日	講義・演習	イベント実践を通してLOCKの魅せ方を学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		授業外でもセッションをしたり、とにかく実践すること。		
【使用教科書・教材・参考書】				
シューズ、タオル				

科目名	Group Vocal (3) Group Vocal A (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	潤豊 ・ 神崎絢乃
学科・コース	ダンス&アクターズ科(屋間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	THE SOULMATICCSが主催するJASRA認定メンバーとして様々なコンサート、イベント、Recに参加。多方面で活躍中。						
授業の学習 内容	ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドについても習得する。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。 ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、 ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月19日	講義・演習	個人目標設定を行う	次の講義までに復習を要する
2	5月10日	講義・演習	横隔膜を意識した腹式呼吸が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
3	5月17日	講義・演習	マイクテクニック(声の乗せ方)を知る	次の講義までに復習を要する
4	5月24日	講義・演習	リズムとグループの仕組みを知る	次の講義までに復習を要する
5	5月31日	講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (体重移動)□	次の講義までに復習を要する
6	6月7日	講義・演習	簡単な動きをつけた時の体の使い方(歌唱)を知る	次の講義までに復習を要する
7	6月14日	講義・演習	簡単なステップをつけた時の体の使い方(歌唱)を知る	次の講義までに復習を要する
8	6月21日	講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (リズムを意識して振り付けを行える)	次の講義までに復習を要する
9	6月28日	講義・演習	振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを行う□	次の講義までに復習を要する
10	7月5日	講義・演習	ステージパフォーマンスの流れを知る	次の講義までに復習を要する
11	7月12日	講義・演習	振り付け、構成付き歌唱パフォーマンス を行うことができる	次の講義までに復習を要する
12	7月19日	講義・演習	試験	試験を終えての反省
13	8月23日	講義・演習	試験総括(改善点を知る)	これからに向けて自分の技量と向き合う
14	8月30日	講義・演習	イベント実践を通してステージパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
15	9月6日	講義・演習	イベント実践を通してステージパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持ってくる		
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード				

科目名	Group Vocal (3) Group Vocal B (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	潤豊 ・ 神崎絢乃
学科・コース	ダンス&アクターズ科(屋間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4単位)		
教員の略歴	THE SOULMATICCSが主催するJASRA認定メンバーとして様々なコンサート、イベント、Recに参加。多方面で活躍中。						
授業の学習 内容	ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドについても習得する。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。 ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、 ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月19日	講義・演習	個人目標設定を行う	次の講義までに復習を要する
2	5月10日	講義・演習	横隔膜を意識した腹式呼吸が出来るようになる	次の講義までに復習を要する
3	5月17日	講義・演習	マイクテクニック(声の乗せ方)を知る	次の講義までに復習を要する
4	5月24日	講義・演習	リズムとグループの仕組みを知る	次の講義までに復習を要する
5	5月31日	講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (体重移動)□	次の講義までに復習を要する
6	6月7日	講義・演習	簡単な動きをつけた時の体の使い方(歌唱)を知る	次の講義までに復習を要する
7	6月14日	講義・演習	簡単なステップをつけた時の体の使い方(歌唱)を知る	次の講義までに復習を要する
8	6月21日	講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (リズムを意識して振り付けを行える)	次の講義までに復習を要する
9	6月28日	講義・演習	振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを行う□	次の講義までに復習を要する
10	7月5日	講義・演習	ステージパフォーマンスの流れを知る	次の講義までに復習を要する
11	7月12日	講義・演習	振り付け、構成付き歌唱パフォーマンス を行うことができる	次の講義までに復習を要する
12	7月19日	講義・演習	試験	試験を終えての反省
13	8月23日	講義・演習	試験総括(改善点を知る)	これからに向けて自分の技量と向き合う
14	8月30日	講義・演習	イベント実践を通してステージパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
15	9月6日	講義・演習	イベント実践を通してステージパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持ってくること		
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード				

科目名	Group Vocal (4) Group Vocal A (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	潤豊 ・ 神崎絢乃
学科・コース	ダンス&アクターズ科(屋間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	THE SOULMATICCSが主催するJASRA認定メンバーとして様々なコンサート、イベント、Recに参加。多方面で活躍中。						
授業の学習 内容	ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドについても習得する。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。 ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、 ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月4日	講義・演習	歌唱時のフォームを意識することが出来る	次の講義までに復習を要する
2	10月11日	講義・演習	リズムを持続したまま歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
3	10月18日	講義・演習	リズム+グループを持続したまま歌唱 パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
4	10月25日	講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (アイソレーション、ポップ、フレックス)	次の講義までに復習を要する
5	11月1日	講義・演習	共鳴(胸部)について理解する	次の講義までに復習を要する
6	11月8日	講義・演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
7	11月15日	講義・演習	歌唱パフォーマンス時の体のバランスを 自分自身で整えることができる	次の講義までに復習を要する
8	11月22日	講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (アイソレーション、ストップ、エアポーズ)	次の講義までに復習を要する
9	11月29日	講義・演習	自分で振り付け、ステージパフォーマンスを 考えることができる	次の講義までに復習を要する
10	12月6日	講義・演習	自分で付けた振り付けに合わせて、 歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
11	12月13日	講義・演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める	次の講義までに復習を要する
12	12月20日	講義・演習	試験	試験を終えての反省
13	1月10日	講義・演習	試験総括(改善点を知る)	これからに向けて自分の技量と向き合う
14	1月17日	講義・演習	イベント実践を通してステージパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
15	1月31日	講義・演習	イベント実践を通してステージパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持ってくる		
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード				

科目名	Group Vocal (4) Group Vocal B (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	潤豊 ・ 神崎絢乃
学科・コース	ダンス&アクターズ科(屋間部1)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 (4単位)		
教員の略歴	THE SOULMATICCSが主催するJASRA認定メンバーとして様々なコンサート、イベント、Recに参加。多方面で活躍中。						
授業の学習 内容	ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドについても習得する。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。 ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、 ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月4日	講義・演習	歌唱時のフォームを意識することが出来る	次の講義までに復習を要する
2	10月11日	講義・演習	リズムを持続したまま歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
3	10月18日	講義・演習	リズム+グループを持続したまま歌唱 パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
4	10月25日	講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (アイソレーション、ポップ、フレックス)	次の講義までに復習を要する
5	11月1日	講義・演習	共鳴(胸部)について理解する	次の講義までに復習を要する
6	11月8日	講義・演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
7	11月15日	講義・演習	歌唱パフォーマンス時の体のバランスを 自分自身で整えることができる	次の講義までに復習を要する
8	11月22日	講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (アイソレーション、ストップ、エアポーズ)	次の講義までに復習を要する
9	11月29日	講義・演習	自分で振り付け、ステージパフォーマンスを 考えることができる	次の講義までに復習を要する
10	12月6日	講義・演習	自分で付けた振り付けに合わせて、 歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
11	12月13日	講義・演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める	次の講義までに復習を要する
12	12月20日	講義・演習	試験	試験を終えての反省
13	1月10日	講義・演習	試験総括(改善点を知る)	これからに向けて自分の技量と向き合う
14	1月17日	講義・演習	イベント実践を通してステージパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
15	1月31日	講義・演習	イベント実践を通してステージパフォーマンスを学ぶ	レポートの提出
準備学習 時間外学習		・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持ってくる		
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード				